

過去 18 年のデータが伝える 21 世紀の兆し

1992

株式会社 ワコール

時代とともに変化していく女性のところとからだ…。ワコールでは、からだの数値の変化だけでなく、1964年から1992年の28年間にわたって女性のところとからだについて調査を実施してきました。

そして今回、そのなかの18年間の調査と同じ様々な質問をもう一度行い、過去と現在の比較から、変化した女性の姿を、また彼女たちの未来の兆しを考察してみました。

女性のところとからだは大きく変化しています。それは単に、からだの数値が変化したということではなく、女性たちのところの変化がからだを変えていったのです。そしてそんな女性たちの21世紀は…？

女性たちの偉大なるエントロピーENTROPY（変化）。本書では、それを探り、21世紀の女性たちへのメッセージとしたいと思います。

ワコールはこれからも、女性たちの無限のエントロピーを追い続け、応援していきます。

過去 18 年のデータが伝える 21 世紀の兆し 《目次》

調査企画	1
I 男女関係の意識の変化	3
1. 恋愛結婚の条件	3
2. 結婚する? しない?	3
3. 結婚後の夫と妻の関係は?	4
4. 夫に求める存在価値	5
5. 女にとっての恋愛、男にとっての恋愛	6
6. 結婚すると女はきれいになる?	7
7. どうなる“ボーダーレス”	7
8. 自然志向・人工志向の先行きは?	8
II 男らしさ・女らしさの変化	9
1. 時代が求める女性	9
2. 女らしきのキーワード	9
3. 男らしきのキーワード	10
4. 男と女、お互いの認識は?	11
III 男女の行動の違い	12
1. オフタイムの過ごし方	12
2. ショッピングの行動範囲	12
3. 大切なイベントとは?	13
IV “セクシー”の変化	14
1. セクシーさは必要か?	14
2. セクシーとは?	14
3. セクシーと言われて?	15
4. セクシーの条件	15
5. セクシーの代表	16
V おしゃれとからだの関係	17
1. これから着たいファッション	17
2. おしゃれに影響を与えるのは?	18
3. ボディチェック度	18
VI ボディに対する意識について	19
1. 男性の視線は、女性のどこに注がれる?	19
2. バスト、ヒップとファッションの関係は?	19
3. ボディラインのためにしていることは?	20
4. 自分のボディに満足している?	21
5. 恋人や妻のボディサイズは?	22
6. 納得できるボディサイズ	22
7. 理想のプロポーションの変化	24
8. 魅力的なバストの持ち主は?	25
9. 魅力的なヒップの持ち主は?	25
10. サイズの変化が気になる場所は?	26
11. 寝る時につける下着は?	26
12. 初めてブラジャー、ガードルをつけたのは?	27
13. 好きなブラジャーのタイプは?	27

調査企画

1・調査目的

この調査は、「おしゃれ・ファッション」「結婚観」「セクシーさ」「ボディ」など、「どこから」
と「からだ」に関する意識と実態をいろいろな側面から捉え、男女間の意識の違いなどを明
らかにすることを目的に実施しました。

また、分析では、当社がこれまで実施してきた調査結果と比較し、その年次比較や推移を
見ています。

2・調査対象

首都30キロ圏に居住する18歳～39歳の男女各50名を対象としました。

3・調査対象の抽出方法

調査地点を無作為に抽出し、地点内に居住する該当条件の男女を調査対象とするエリアサ
ンプルング法によりました。

4・調査方法

調査票を用いた自記式留置法によりました。

5・調査期間

平成4年2月25日～平成4年3月12日

6・今回調査の標本構成

有効回収男女各50名、構成内容は左ページの表をご覧ください。

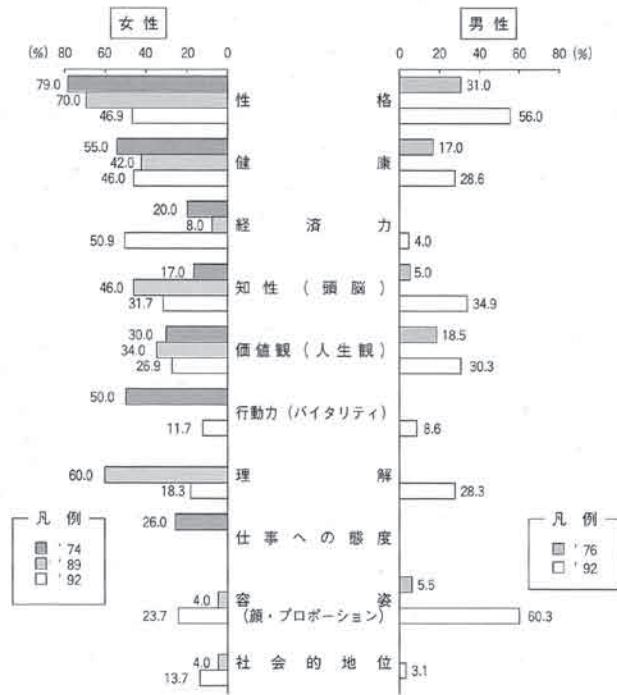
男 性							女 性																		
サンプル数	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	平均	年 齢	サンプル数	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	平均											
350人 100.0%	71人 20.3%	69人 19.7%	71人 20.3%	68人 19.4%	71人 20.3%	27.3歳	全 体	350人 100.0%	68人 19.4%	73人 20.9%	70人 20.0%	63人 18.0%	76人 21.7%	27.4歳											
サンプル数	未 婚		既 婚		未 既 婚	サンプル数	未 婚		既 婚		未 既 婚														
350 100.0	209 59.7		141 40.3		全 体	350 100.0	151 43.1		199 56.9																
71 100.0	69 97.2		2 2.8		18～19歳	68 100.0	67 98.5		1 1.5																
69 100.0	60 87.0		9 13.0		20～24歳	73 100.0	57 78.1		16 21.9																
71 100.0	52 73.2		19 26.8		25～29歳	70 100.0	22 31.4		48 68.6																
68 100.0	19 27.9		49 72.1		30～34歳	63 100.0	5 7.9		58 92.1																
71 100.0	9 12.7		62 87.3		35～39歳	76 100.0	—		76 100.0																
サンプル数	い る	い な い	無 回 答		子供の有無 (既婚者)	サンプル数	い る	い な い																	
141 100.0	96 68.1	44 31.2	1 0.7		全 体	199 100.0	161 80.9	38 19.1																	
2 100.0	1 50.0	1 50.0	—		18～19歳	1 100.0	—	100.0																	
9 100.0	3 33.3	6 66.7	—		20～24歳	16 100.0	6 37.5	10 62.5																	
19 100.0	12 63.2	7 36.8	—		25～29歳	48 100.0	34 70.8	14 29.2																	
49 100.0	28 57.1	20 40.8	1 2.0		30～34歳	58 100.0	49 84.5	9 15.5																	
62 100.0	52 83.9	10 16.1	—		35～39歳	76 100.0	72 94.7	4 5.3																	
サンプル数	恋人がいる	カールフレンドがいる	い な い		恋人・ボーイフレンド の存在の有無	サンプル数	恋人がいる	ボーイフレンドがいる	い な い																
350 100.0	115 32.9	58 16.6	177 50.6		全 体	350 100.0	66 18.9	64 18.3	220 62.9																
71 100.0	34 47.9	12 16.9	25 35.2		18～19歳	68 100.0	18 26.5	33 48.5	17 25.0																
69 100.0	24 34.8	19 27.5	26 37.7		20～24歳	73 100.0	31 42.5	16 21.9	26 35.6																
71 100.0	37 52.1	14 19.7	20 28.2		25～29歳	70 100.0	12 17.1	7 10.0	51 72.9																
68 100.0	12 17.6	9 13.2	47 69.1		30～34歳	63 100.0	4 6.3	5 7.9	54 85.7																
71 100.0	8 11.3	4 5.6	59 83.1		35～39歳	76 100.0	1 1.3	3 3.9	72 94.7																
サンプル数	会社員・ 公務員	自営業・ 経営者	その他有職	学 生	無 職	無 回 答	職 業	サンプル数	OLなど フルタイム	パート・ アルバイト	自営業・ 経営者	その他有職	専業主婦	学 生	そ の 他										
350 100.0	216 61.7	29 8.3	3 0.9	95 27.1	3 0.9	4 1.1	全 体	350 100.0	81 23.1	74 21.1	11 3.1	1 0.3	102 29.1	80 22.9	1 0.3										
71 100.0	9 12.7	—	3 4.2	56 78.9	2 2.8	1 1.4	18～19歳	68 100.0	8 11.8	4 5.9	—	—	1 1.5	55 80.9	—										
69 100.0	29 42.0	3 4.3	—	37 53.6	—	—	20～24歳	73 100.0	31 42.5	6 8.2	2 2.7	—	9 12.3	25 34.2	—										
71 100.0	59 83.1	9 12.7	—	2 2.8	1 1.4	—	25～29歳	70 100.0	24 34.3	14 20.0	2 2.9	—	29 41.4	—	1 1.4										
68 100.0	60 88.2	7 10.3	—	—	—	1 1.5	30～34歳	63 100.0	13 20.6	18 28.6	5 7.9	1 1.6	26 41.3	—	—										
71 100.0	59 83.1	10 14.1	—	—	—	2 2.8	35～39歳	76 100.0	5 6.6	32 42.1	2 2.6	—	37 48.7	—	—										
サンプル数	100万円 未満	100万円 200万円 未満	200万円 300万円 未満	300万円 400万円 未満	400万円 500万円 未満	500万円 700万円 未満	700万円 1000万円 未満	1000万円 1500万円 未満	1500万円 以上	無回答	平均	年 取	サンプル数	100万円 未満	100万円 200万円 未満	200万円 300万円 未満	300万円 400万円 未満	400万円 500万円 未満	500万円 700万円 未満	700万円 1000万円 未満	1000万円 1500万円 未満	1500万円 以上	無回答	平均	
350 100.0	64 18.3	12 3.4	22 6.3	46 13.1	71 20.3	75 21.4	21 6.0	4 1.1	1 0.3	34 9.7	405.5	全 体	350 100.0	72 20.6	17 4.9	34 9.7	30 8.6	63 18.0	85 24.3	30 8.6	7 2.0	2 0.6	10 2.9	418.4	
71 100.0	37 52.1	6 8.5	5 7.0	2 2.8	1 1.4	—	1 1.4	—	—	18 25.4	136.8	18～19歳	68 100.0	53 77.9	5 7.4	3 4.4	—	1 1.5	—	1 1.5	—	—	—	5 7.4	86.5
69 100.0	25 36.2	4 5.8	7 10.1	11 15.9	5 7.2	4 5.8	1 1.4	—	—	12 17.4	227.2	20～24歳	73 100.0	18 24.7	5 6.8	16 21.9	10 13.7	14 19.2	4 5.5	1 1.4	—	—	—	5 6.8	275.0
71 100.0	2 2.8	2 2.8	7 9.9	19 26.8	22 31.0	17 23.9	—	—	—	2 2.8	418.8	25～29歳	70 100.0	1 1.4	7 10.0	10 14.3	13 18.6	18 25.7	14 20.0	6 8.6	1 1.4	—	—	—	442.9
68 100.0	—	—	3 4.4	10 14.7	28 41.2	23 33.8	4 5.9	—	—	—	500.7	30～34歳	63 100.0	—	—	4 6.3	4 6.3	19 30.2	29 46.0	3 4.8	4 6.3	—	—	—	569.8
71 100.0	—	—	—	4 5.6	15 21.1	31 43.7	15 21.1	3 4.2	1 1.4	2 2.8	652.2	35～39歳	76 100.0	—	—	1 1.3	3 3.9	11 14.5	38 50.0	19 25.0	2 2.6	2 2.6	—	—	673.7
サンプル数	フルタイム	パート・ アルバイト	その他有職	専業主婦	無 回 答	妻の職業 (既婚者)																			
141 100.0	34 24.1	50 35.5	3 2.1	44 31.2	10 7.1	全 体																			
2 100.0	1 50.0	1 50.1	—	—	—	18～19歳																			
9 100.0	3 33.3	1 11.1	—	5 55.6	—	20～24歳																			
19 100.0	5 26.3	5 26.3	1 5.3	3 15.8	5 26.3	25～29歳																			
49 100.0	10 20.4	21 42.9	—	15 30.6	3 6.1	30～34歳																			
62 100.0	15 24.2	22 35.5	2 3.2	21 33.9	2 3.2	35～39歳																			

I. 男女関係の意識の変化

1. 恋愛・結婚の条件

お相手は性格よりも**経済力**。ここまでのきた**ブランド志向**。

<図-1> 恋人・配偶者に求める条件



「結婚はしたい。でも条件も厳しい」のが90年代女性。

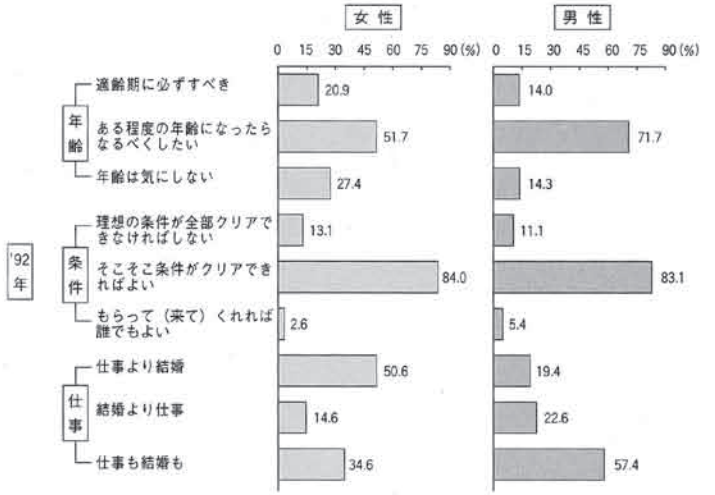
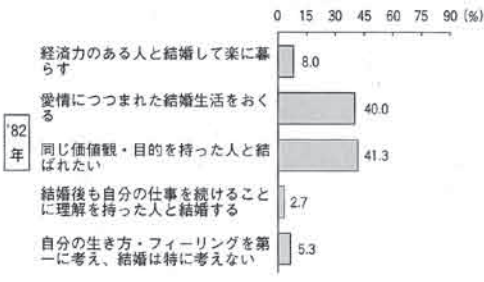
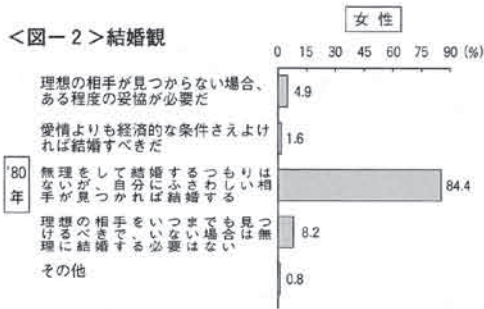
2. 結婚する？ しない？

恋人・配偶者に求める条件を3項目まであげてもらいました。**女性**の方から見ると'74年、'89年の調査では、「性格」が第一でしたが、今回は2位(46.9%)に落ち、「経済力」(50.9%)が第一になっています。今回「経済力」が上位にあがったのは、学生・OL時代とある程度リッチな生活をしてきた女性たちの、今より生活レベルを下げるような結婚はしたくないという思いが強いからではないでしょうか。彼女たちの中では、「健康」は変わらず求められていますが、「知性」は'89年(46.0%)より今回(31.7%)の方が低めです。また'74年に50.0%と高かった「行動力」は、今回の「バイタリティ」11.7%と低くなっています。

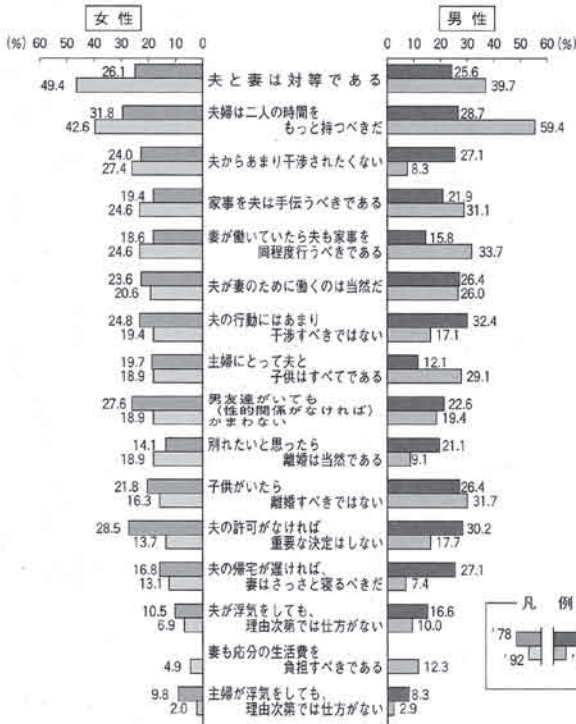
男性が求める条件の方は、今回「容姿」(60.3%)が第一、「76年(1項目のみ選択)」は「顔がいい」4.5%、「プロポジション」1.0%にすぎませんでしたが、みかけ重視の傾向が強くなっているようです。「性格」「健康」「価値観の一致(フリーリング)」が重視されている点は変わりませんが、「知性(知的である)」は'76年(5.0%)に比べて、今回(34.9%)、かなり高くなっています。「容姿」重視の傾向は若い人ほど強くなっています('10代:77.5%、20代後半:45.1%)の結婚適齢期になると激減し、「自分への理解」(20代後半:40.8%)などが高くなります。

結婚観については**女性**には、'80年、'82年、それに今回('92年)聞いていますが、聞き方はおのおの違います。「80年には「無理をして結婚するつもりはないが、自分にふさわしい相手が見つければ結婚する」(84.4%)という、女性が大勢を占めていました。「82年のいい気持ちで生きる結婚は、「同じ価値観・目的を持った人と結ばれたい」(41.3%)、「愛情につつまれた結婚生活をおくる」(40.0%)が高く、それがふさわしい相手の条件でもあったようです。

<図-2>結婚観



<図-3>夫婦の関係・ミセスの生き方 (複数回答)



3. 結婚後の夫と妻の関係は?

夫婦対等の現代、過去形になった亭主関白。

夫婦の関係・ミセスの生き方については、'78年にも聞いています。その同意率を見ると、女性の場合、'78年には「夫婦は二人の時間をもっと持つべきだ」(31.8%)、「夫の許可がなければ重要な決定はしない」(28.5%)、「男女連がいてもかまわない」(27.6%)などについての同意率が高かったのですが、今回は、夫と妻は対等である(49.4%)、「夫婦は二人の時間をもっと持つべきだ」(42.6%)、「夫からあまり干渉されたくない」(31.8%)、「夫が妻のために働くのは当然だ」(24.6%)、「主婦にとって夫と子供はすべてである」(24.8%)、「別れたいと思ったら離婚は当然である」(24.0%)、「夫の行動にはあまり干渉すべきではない」(19.4%)、「夫の浮気をして、理由次第では仕方がない」(16.8%)、「妻も自分の生活費を負担すべきである」(13.7%)、「主婦が浮気をして、理由次第では仕方がない」(2.0%)はより高率です。

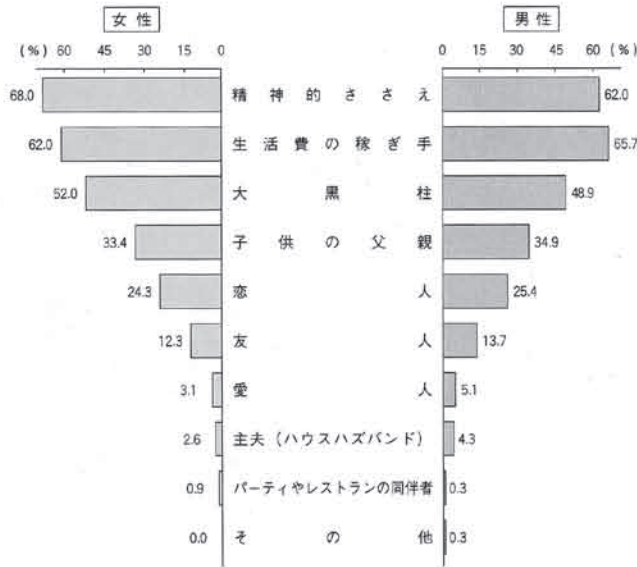
男性は、'78年には「夫の行動にはあまり干渉すべきではない」(32.4%)、「夫の許可がなければ重要な決定はしない」(30.2%)、「夫婦は二人の時間をもっと持つべきだ」(28.7%)がベスト3だったのに対し、今回は、夫婦は二人の時間をもっと持つべきだ(59.4%)、「夫と妻は

'92年の女性には、条件については、「そこそこ条件がクリアできればよい」(84.0%)と考へ、「ある程度の年齢になったらなるべくしたい」(51.7%)とし、現在のところ「仕事より結婚」(50.6%)が大事というのが多数派です。とはいえ、'80年に比べて「理想の条件が全部クリアできなければいけない」人が8.2%から13.1%と増えています。特に、'20代では20%強(20代前半:26.0%、20代後半:20.0%)と、男性余りの時代に、選ぶ立場にいる女性の結婚の条件はかなり厳しいものがあるようです。

また、「仕事も結婚も」(34.6%)という女性が3分の1強を占め、特に、30代前半(42.9%)では高率で、時代の変化がうかがえます。

男性は、今回は「そこそこ条件がクリアできればよい」(83.1%)と考へ、「ある程度の年齢になったらなるべくしたい」(71.7%)は、女性よりも多く、「年齢は気にしない」(14.3%)が女性(27.4%)に比べて少なくなっています。優先度は「仕事も結婚も」(57.4%)が中心で、「結婚より仕事」(22.6%)という人もいますが、「仕事より結婚」(19.4%)が2割を占めているのは、男性結婚難時代の表れでしょうか。

<図-4> 自分の夫に求める役割・存在価値 '92年 (各々回答は3つまで)



夫は精神的ささえ。 女が強くなったとはいえ、やっぱり

4. 夫に求める存在価値

対等である」(39.7%)、「妻が働いていたら夫も家事を同程度行うべきである」(33.7%)へと変わり、かつての専業主婦から夫婦協力型へと大きな変化が見られます。働く主婦が増え、家事をすることに抵抗が少なくなったのでしょう。また「子供がいいたら離婚すべきではない」(31.7%)、「主婦にとって夫と子供はすべてである」(29.1%)は、女性に比べて高いのに対し、女性には「別れたいと思ったら離婚は当然である」(18.9%)が、男性(9.1%)よりも高率です。「夫が妻のために働くのは当然だ」(26.0%)と思っている、男性が少なくない一方で、平等化を反映して、「妻も応分の生活費を負担すべきである」(12.3%)という、男性も女性より多くなっています。

女性に自分の夫(将来の夫)に求める役割・存在価値はどのようなか聞いてみたところ、「精神的ささえ」という人が68.0%と最も多く、小差で「生活費の稼ぎ手」が62.0%、「大黒柱」が52.0%と続き、主になっています。そのほかには3人に1人(33.4%)が「子供の父親」、4人に1人(24.3%)が「恋人」をあげています。2位とはいえ、やはり経済力が重視されているようにです。

年齢別に見ても、いずれも「精神的ささえ」「生活費の稼ぎ手」「大黒柱」をあげる人は多くなっています。年齢が上の人ほど「精神的ささえ」「子供の父親」、若い人ほど「恋人」をあげる割合が高くなっています。

未既婚別に見ると、「恋人」「友人」をあげる割合は、既婚者より未婚者の方が高くなっています。未既婚別に見ると、女性と同様に「恋人」をあげる割合は、既婚者(17.7%)より未婚者(30.6%)、「子供の父親」は、未婚者(27.3%)より既婚者(46.1%)の方が高くなっています。

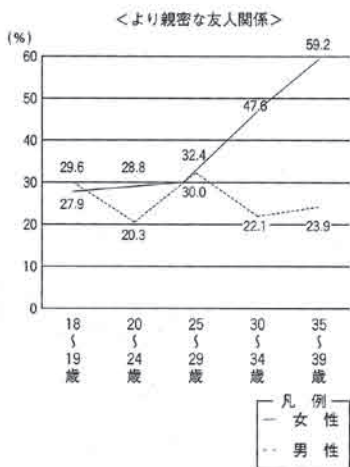
一方、当事者の男性に、女性が自分の夫に求める役割・存在価値はどのようなか聞いてみたところ、「生活費の稼ぎ手」と見ている人が65.7%と最も多く、差なく「精神的ささえ」(62.0%)、3番目に「大黒柱」(48.9%)があげられており、ベスト3には、女性が考える項目と同じものがあげられています。また、「子供の父親」(34.9%)、「恋人」(25.4%)も、女性の結果と同程度を示しており、この点に関しては男女間に意識の違いはあまりないようにです。

年齢別に見ても、いずれも順位の違いはありませんが、「生活費の稼ぎ手」「精神的ささえ」「大黒柱」がベスト3にランクされています。また、女性と同様、若い人ほど「恋人」をあげる割合が高くなっています。

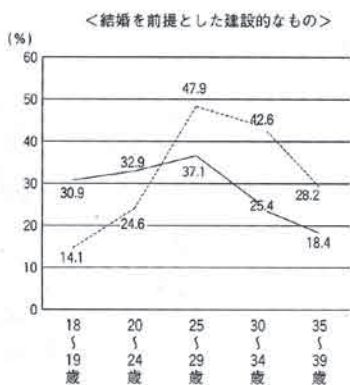
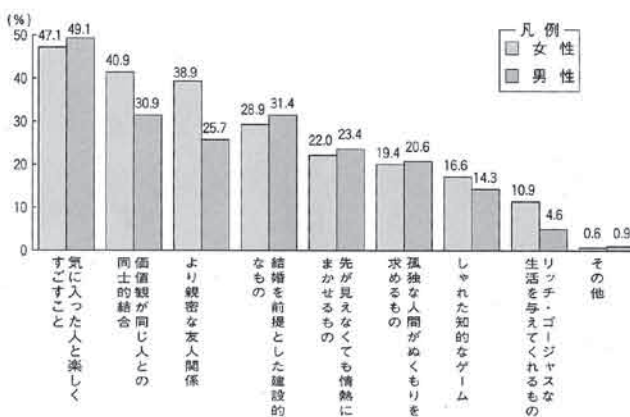
「恋愛」の陰に見えるもの

女は友情、男は結婚。

<図-6>恋愛とは'92年(年齢別)



<図-5>恋愛とは'92年(複数回答)



自分にとって「恋愛」とはどのようなものか聞いてみたところ、**女性**では、「気に入った人と楽しく過ごすこと」が47.1%と最も多く、次いで「価値観が同じ人との同士の結合」(40.9%)と「より親密な友人関係」(38.9%)が同程度で続き、以下「結婚を前提とした建設的なもの」(28.9%)、「先が見えなくても情熱にまかせるもの」(23.4%)などとなっている。年齢別に見ても、いずれも「気に入った人と楽しく過ごすこと」という意識は強くなっているが、年齢が上の人ほど「より親密な友人関係」をあげる割合が高く、30代前半で5割弱(47.9%)、30代後半では6割(59.2%)に達している。また、30代では「価値観が同じ人との同士の結合」という割合が5割以上と他の年代に比べて高く、30代後半では61.8%で最も多くなっている。

未結婚別に見ると、「既婚者」では「価値観が同じ人との同士の結合」という割合が52.3%と、「未婚者」(25.8%)の2倍の値を示し、トップになっているが目立ちます。また、「より親密な友人関係」「孤独な人間がぬくもりを求めるもの」「しゃれた知的なゲーム」「リッチ・ゴージャスな生活を与えてくれるもの」という割合も、既婚者の方が高くなっています。反対に、「結婚を前提とした建設的なもの」は「未婚者」の方が高めます。

一方、**男性**でも、「気に入った人と楽しく過ごすこと」と考える人が49.1%と最も多く、以下「結婚を前提とした建設的なもの」(31.4%)、「価値観が同じ人との同士の結合」(30.9%)、「より親密な友人関係」(25.7%)、「先が見えなくても情熱にまかせるもの」(23.4%)が続く。ベスト5には順位の違いはありますが、女性と同じ項目があげられています。ただし、「より親密な友人関係」「価値観が同じ人との同士の結合」は「女性」に比べて低率で、友情と恋愛は別という意識が、女性よりも強いといえそうです。

年齢別に見ると、「10代」で「気に入った人と楽しく過ごすこと」が62.0%と他の年代の4割台に比べて高率なのが目につきます。また、「20代後半」や「30代前半」で「結婚を前提とした建設的なもの」(順に47.9%、42.6%)、「20代後半」で「価値観が同じ人との同士の結合」(46.5%)が他の年代に比べて高率です。

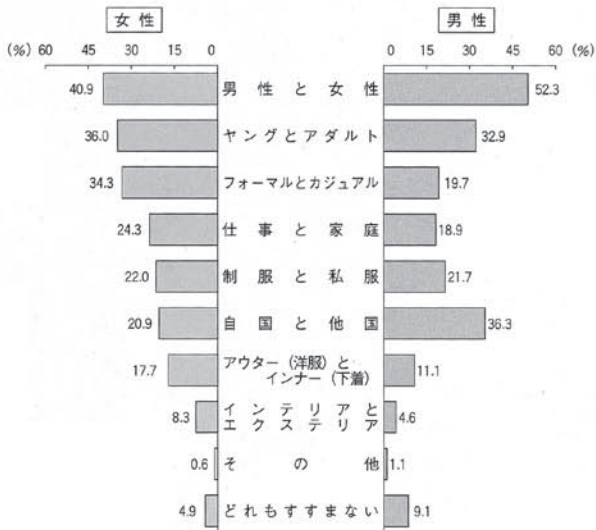
また、未結婚別に見ると、「先が見えなくても情熱にまかせるもの」は「既婚者」(19.1%)より「未婚者」(26.3%)が高めですが、全般にそれほど意識の違いはありません。

年齢による考え方の変化を男女を比較しながら見ると、「より親密な友人関係」と考える「女性」は、30代から多くなるのに対し、「男性」は年齢による変化がありません。

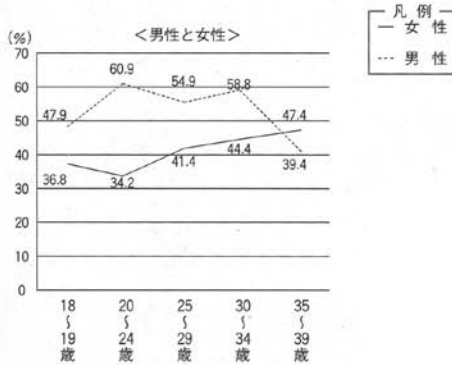
一方、「20代」までは「結婚を前提とした建設的なもの」と恋愛を捉えていた「女性」が、30代では低くなります。一方、「男性」は、20代後半で高率になり、30代でやや下がるものの「女性」よりは高率です。

また、全般に未婚と既婚で「男性」は恋愛の捉えかたが異なりませんが、「女性」では大きく変化しています。

<図-11>ボーダーレス化がすすむと思うもの'92年(複数回答)



<図-12>「男性と女性」「ヤングとアダルト」「自国と他国」「アウターとインナー」の年齢別の変化'92年



これからボーダーレス化がすすむと思うものをあげてみると、**女性**では「男性と女性」をあげる人が40.9%と最も多く、以下「ヤングとアダルト」(36.0%)、「フォーマルとカジュアル」(34.3%)、「仕事と家庭」(24.3%)、「制服と私服」(22.0%)、「自国と他国」(20.9%)が続いています。なお、「どれもすすまない」という人は少数(4.9%)です。

一方、**男性**の見方を見ると、女性同様「男性と女性」をあげる人が52.3%と最も多く、以下「自国と他国」(36.3%)、「ヤングとアダルト」(32.9%)、「制服と私服」(21.7%)、「フォーマルとカジュアル」(19.7%)の順となっています。また、女性同様「どれもすすまない」という人も少数(9.1%)います。

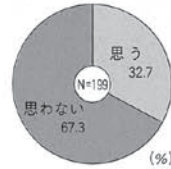
女性に比べ、「フォーマルとカジュアル」「アウターとインナー」をあげる割合は低くなっていますが、「男性と女性」「自国と他国」は、男性の方が高くなっています。

年齢別の変化を男女比較しながら見ると、「男性と女性」について、女性は年齢が上になる

「男女間の境がなくなる」 で男女の意見が一致。

7. どうなる「ボーダーレス」

'92年



<図-7>自分は結婚してきれいになったと思うか(既婚女性)

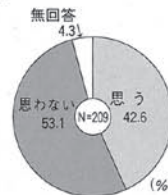
まず、**既婚女性**に、自分は結婚前より結婚してからのほうがきれいになったと思うか聞いてみたところ、「思う」という人が32.7%と3人に1人の割合となっています。

ここでは、女性が、結婚前と結婚後ではどちらの方がきれいだと思うか、既婚者には実際に未婚者には想定意見を聞いてみました。

本人が想像する以上に、女は結婚すると美しくなるもの。

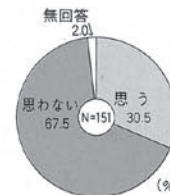
6. 結婚すると女はきれいになる?

'92年



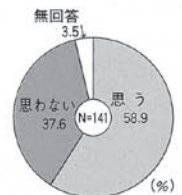
<図-10>

結婚してからのほうがきれいになると思うか(未婚男性)



<図-9>

結婚してからのほうがきれいになると思うか(未婚女性)



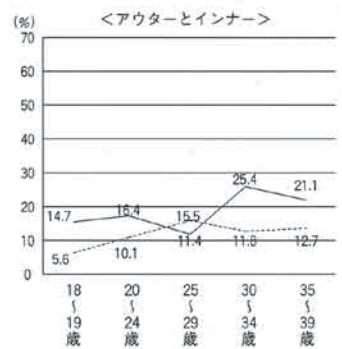
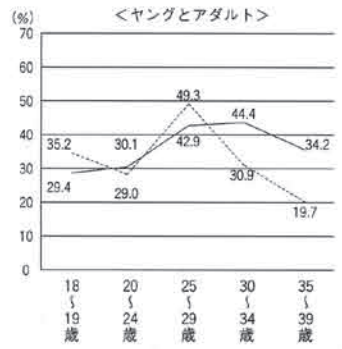
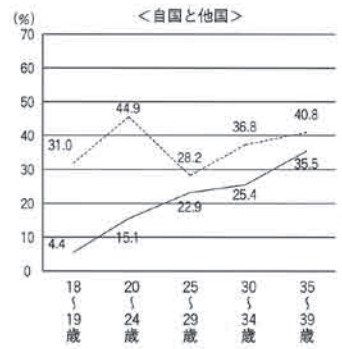
<図-8>

妻は結婚してからのほうがきれいになったと思うか(既婚男性)

さらに、**未婚男性**に、恋人やガールフレンドは結婚してからのほうがきれいになるだろうと思うか聞いてみたところ、「思う」という人が42.6%と、ここでも女性より男性の方が、女性は結婚するときれいになるとの見方が強くなっています。

また、**既婚男性**に、自分の妻は結婚前より結婚してからのほうがきれいになったと思うか聞いてみたところ、「思う」という人が58.9%と5人に3人の割合を占め、女性が考えている以上に、女性は結婚するときれいになるようです。

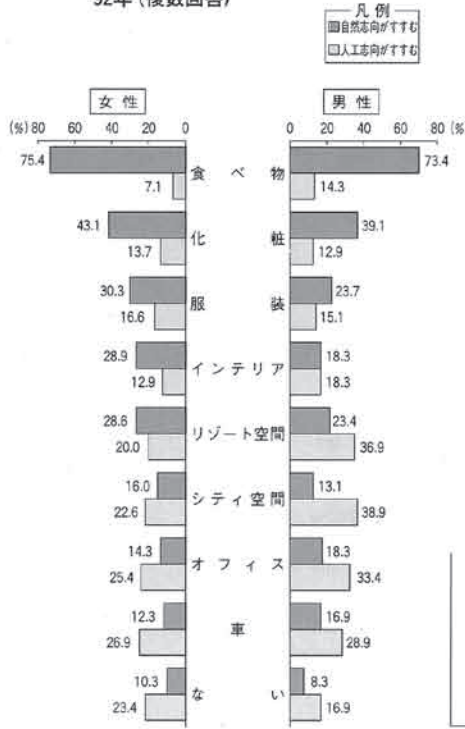
未婚女性に、自分は現在より結婚してからのほうがきれいになると思うか聞いてみたところ、「思う」という人は30.5%で、3人に2人(67.5%)が「思わない」と答えています。ただし、18~19歳では「思う」が43.3%と高く、可愛い奥さんへのあこがれや自信のほどがうかがえます。



8・自然志向・人工志向の先行きは？

予想は、人工空間で過ごす ナチュラルな生活。

＜図-13＞自然志向・人工志向がすすむと思うもの '92年(複数回答)



ここでは、まず、今後自然志向がすすむものはどれかと思うか、「服装」「食べ物」など8項目から選んでもらいました。

その結果、女性では、「食べ物」(75.4%)をあげる人が4人に3人の割合と断然多く、以下「化粧品」(43.1%)、「服装」(30.3%)、「インテリア」(28.9%)、「リゾート空間」(28.6%)が続いており、生活やファッションのナチュラル化が一層すすみそうです。どれも「ない」という人は1割(10.3%)です。

年齢別に見ても、いずれも「食べ物」をあげる人が圧倒的に多くなっています。なお、30代後半が8項目中5項目で最も高率を示しており、子育て時期にあるためか自然重視の思いが

ほど高率、男性は20代前半(60.9%)が特に高く、30代後半(39.4%)で低くなります。

「ヤングとアダルト」は、女性の20代後半(42.9%)、30代前半(44.4%)で高率、男性は20代後半(49.3%)が特に高率です。ヤングとアダルトの両方が見える年代で、その違いがより感じられるようです。

「自国と他国」は、男性の20代前半(44.9%)で高いが目立ちます。「アウトターとインナー」は、女性の30代で高くなっていますが、男性は20代、30代であまり変わりません。

一番強いようです。

一方、男性でも、「食べ物」をあげる人が73.4%と圧倒的に多く、以下「化粧品」(39.1%)、「服装」(23.7%)が続く、ベスト3には「女性」と同じ項目があげられています。そのほか2割前後が「リゾート空間」(23.4%)、「インテリア」(18.3%)、「オフィス」(18.3%)をあげています。また、「ない」という人は1割弱(8.3%)です。女性に比べ「服装」「リゾート空間」「インテリア」をあげる割合は低くなっていますが、「オフィス」や「車」は男性の方が高めています。

年齢別に見ても、女性同様いずれも「食べ物」をあげる人が圧倒的に多くなっています。同様に、今後人工(加工)志向がすすむものはどれかと思うか、同じ8項目から選んでもらいました。その結果、女性では、「車」をあげる人が26.9%と最も多く、以下「オフィス」(25.4%)、「シティ空間」(22.6%)、「リゾート空間」(20.0%)が続いています。また、どれも「ない」という人も23.4%とはほぼ4人に1人の割合で見られ、全般に自然志向に比べて低率です。

年齢別に見ると、10代で「車」(25.0%)から、30代前半は「オフィス」がトップですが、30代後半になると「服装」をあげる割合が34.2%と他の年代に比べ高くトップ、第2位にも年齢が上の人があげられる割合が高い「化粧品」(30.3%)がランクされています。

一方、男性では、「シティ空間」が38.9%と最も多く、差なく「リゾート空間」(36.9%)、以下「オフィス」(33.4%)、「車」(28.9%)が続く、主になっています。また、どれも「ない」という人は16.9%と、女性よりは少なめです。

全般的に、女性より男性の方が高率を示している項目が多く、男性の方がいろいろなもの人工(加工)志向がすすむと考えているようです。年齢別に見ると、年齢が上の人が「オフィス」をあげる割合が高く、30代後半では36.9%でトップになっているのが目につきます。

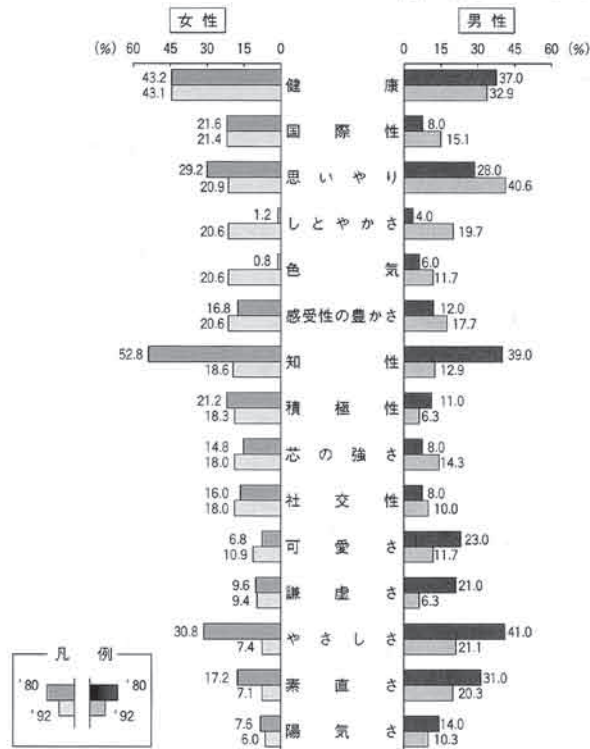
Ⅱ・男らしさ・女らしさの変化

1・時代が求める女性

90年代、女の魅力は、

マルチの時代。

<図-14>80年代、90年代にふさわしい女性の要素
(各々回答は3つまで)



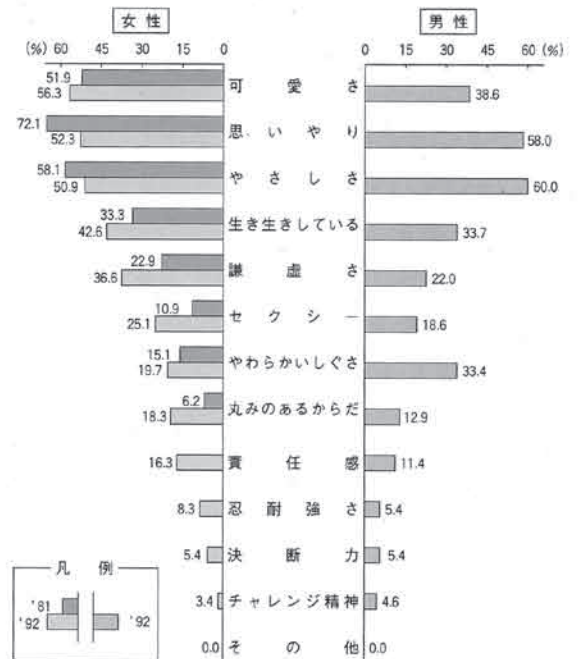
ボディコン人気の陰で、まだまだ
やさしくなければ女じゃない。

2・女らしさのキーワード

女らしさの条件を見ると、81年調査も92年調査も「可愛さ」「思いやり」「やさしさ」がベスト3になっていますが、「女性」の場合、今回は81年に比べて「思いやり」(52.3%)、「やさしさ」(50.9%)がやや下がって、「生き生きしている」(42.6%)、「謙虚さ」(36.6%)、「セクシー」(25.1%)、「丸みのあるからだ」(18.3%)が高くなっています。ボディやヴィヴィッドであることが求められ、おとなしい女性がイコール女らしいということではなくなってきているよ

80年に「80年代にふさわしい理想的な女性の要素」、92年に「90年代にふさわしい理想的な女性の要素」を3項目あげてもらい、比較したのが図-14です。
80年は「女性」から見た場合「知性」(52.8%)が特に高く、「健康」(43.2%)、「やさしさ」(30.8%)、「思いやり」(29.2%)と続いていたのですが、今回は「健康」(43.1%)以外は、特に高率な要素はありません。「知性」は特別なものでなくなり、理想的な女性の要素も分散し、人それぞれ異なってきたようです。80年に比べると、今回は「しとやかさ」「色気」(ともに20.6%)の率が高くなっています。
男性も80年には「やさしさ」(41.0%)、「知性」(39.0%)、「健康」(37.0%)と女性と同傾向でしたが、今回は「知性」(12.9%)が大幅に下がり、「思いやり」(40.6%)、「健康」(32.9%)以外には特に高い項目はありません。80年に比べて「知性」「やさしさ」「素直さ」「可愛さ」「謙虚さ」などが下がり、「思いやり」「しとやかさ」「色気」「芯の強さ」などが高くなっており、行動半径の広がった現在は「国際性」(15.1%)も80年(8.0%)の2倍近くがあげられています。
80年代は知性が求められ、この10年で大学進学率が男性を超えるなど、着実にそれを手に入れた女性たち。今度はバランスのとれたマルチな女性が求められているようです。

<図-15> 女らしさの条件 (複数回答)



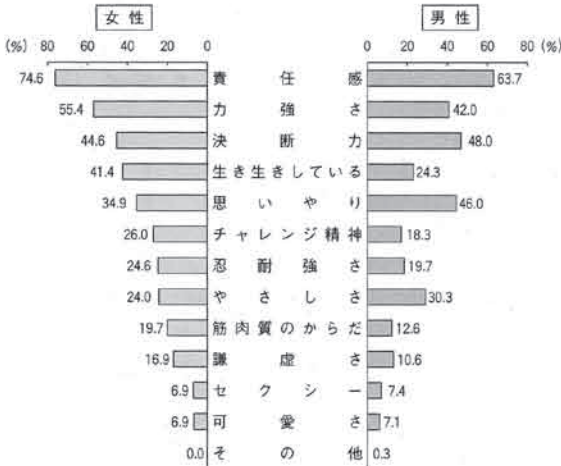
うです。また「責任感」(16.3%)や「忍耐強さ」(8.3%)をあげる人もいますが、「可愛さ」「思いやり」に比べてずっと低率です。
男性は「女性」に比べて「やさしさ」(60.0%)、「思いやり」(58.0%)、「やわらかいしさ」(33.4%)がより高率で、依然として古典的な女性のイメージが強く、「セクシー」(18.6%)や「丸みのあるからだ」(12.9%)は「女性」に比べて低率です。

3・男らしさのキーワード

やさしい男が増えてはいても、

やっぱり、男は責任感で勝負。

<図-16> 男らしさの条件 (複数回答) '92年

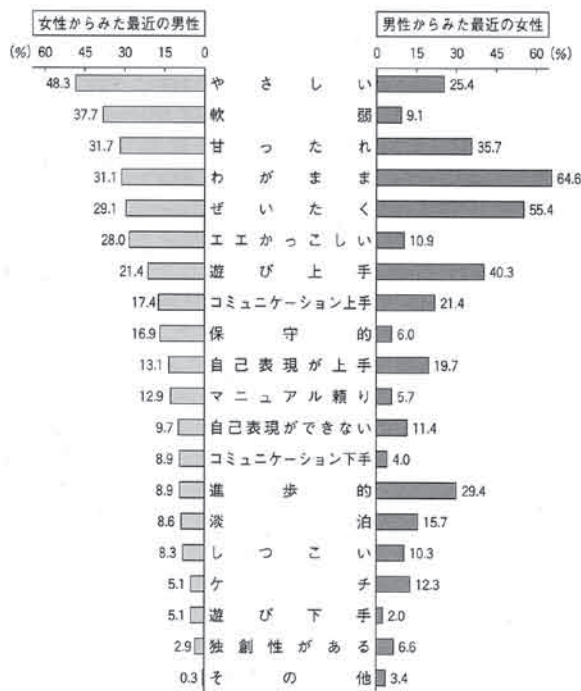


『男らしさ』とはどのようなことかと思うか聞いてみたところ、**女性**では、「責任感」をあげる人が74.6%と4人に3人の割合に達し圧倒的に多くなっています。以下「力強さ」(55.4%)、「決断力」(44.6%)、「生き生きしている」(41.4%)、「思いやり」(34.9%)が続きます。ストライクとなっています。また、4人に1人前後が「チャレンジ精神」(26.0%)、「忍耐強さ」(24.6%)、「やさしさ」(24.0%)をあげています。
 年齢別に見ても、いずれも「責任感」が第一にあげられています。その割合は年齢が上の人ほど高くなっています。「やさしさ」や「謙虚さ」をあげる割合は若い人ほど高い傾向が見られます。
 一方、当事者の**男性**が考える『男らしさ』とは、「女性」同様「責任感」をあげる人が63.7%と最も多く、以下「決断力」(48.0%)、「思いやり」(46.0%)、「力強さ」(42.0%)、「やさしさ」(30.3%)が続いています。「女性」に比べて「思いやり」「やさしさ」をあげる割合が高めなのは、女性から求められていると思うからなのか、あるいはやさしい自分を男らしいと見なしているのかもしれない。
 年齢別に見ても、いずれも「責任感」が6割超でトップをはじめ、上位にあげられている項目は全体と変わりません。
 男性が考える『女らしさ』が古典的であるのと同様に、女性にとっての『男らしさ』も男性自身が考える以上に依然として古典的といえそうです。

男はやさしく、女は

遊び上手の逆転現象。

〈図-17〉最近の異性をみて感じること'92年（複数回答）



ここでは、男女それぞれに、最近の異性を見てどのように感じるかを聞いてみました。

まず、**女性**は最近の男性についてどのように感じているのかを見ると、「やさしい」という人が48.3%と最も多く、以下「軟弱」(37.7%)、「甘ったれ」(31.7%)、「わがまま」(31.1%)、「ぜいたく」(29.1%)、「エエカッコしい」(28.0%)が続いています。また「コミュニケーション下手」(8.9%)より「コミュニケーション上手」(17.4%)、「遊び下手」(5.1%)より「遊び上手」(21.4%)、「進歩的」(8.9%)より「保守的」(16.9%)、「独創性がある」(2.9%)より「マニュアル頼り」(12.9%)という見方をしています。

年齢別に見ても、いずれも上位にあげられている項目は全体と変わりませんが、年齢が上の人が64.6%と最も多く、続く「ぜいたく」(55.4%)の2つについては半数以上の割合を示しています。以下「遊び上手」(40.3%)、「甘ったれ」(35.7%)、「進歩的」(29.4%)、「やさしい」(25.4%)が続いています。また「コミュニケーション下手」(4.0%)より「コミュニケーション上手」(21.4%)、「遊び下手」(2.0%)はわずか2.0%、「保守的」(6.0%)という人も6.0%と少数です。

年齢別に見ても、いずれも「わがまま」「ぜいたく」「遊び上手」との見方が強くなっています。なお、30代後半で「甘ったれ」という割合が52.1%と他の年代に比べて高くなっているのが目につきます。

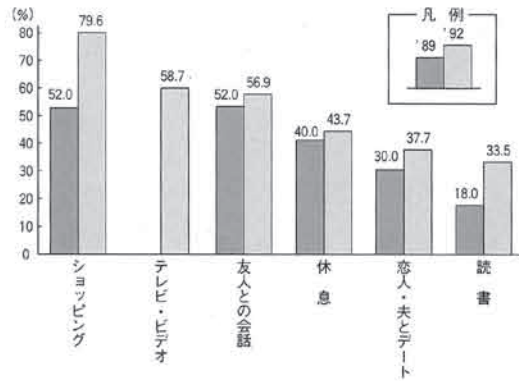
男女を比べてみると、「やさしい」は女性に対してよりも男性について使われ、反対に「遊び上手」や「進歩的」など、かつては男性に使われていた評価が、女性の方で高率になっており、表現の逆転が見られます。女性は、自己主張のない何でも言うことを聞かせる男性に物足りなさを感じ、男性は、自己中心的で男性を振り回す女性をわがままと感じてきている、現在の男女関係の実情が表れているようにです。

Ⅲ・男女の行動の違い

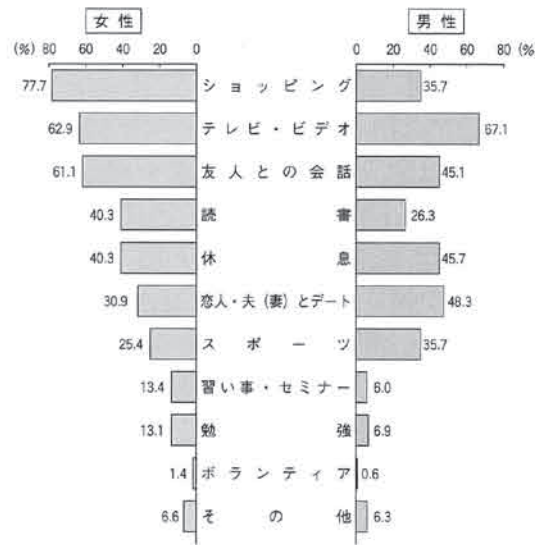
1・オフタイムの過ごし方

男は家でテレビのゴロ寝、
女は外に出て勉強の元気いっぱい。

<図-18> オフタイムの活用法 有職者比較 (女性)



<図-19> オフタイムの活用法 '92年 (複数回答)



仕事や家事以外のオフタイムをどう活用しているか、89年と92年の女性有職者の比較と「ショッピング」が大幅に伸び、「読書」でも増加が目立ちます。全般に92年の方が高率な項目が多く、より多彩に活用するようになったことがうかがえます。

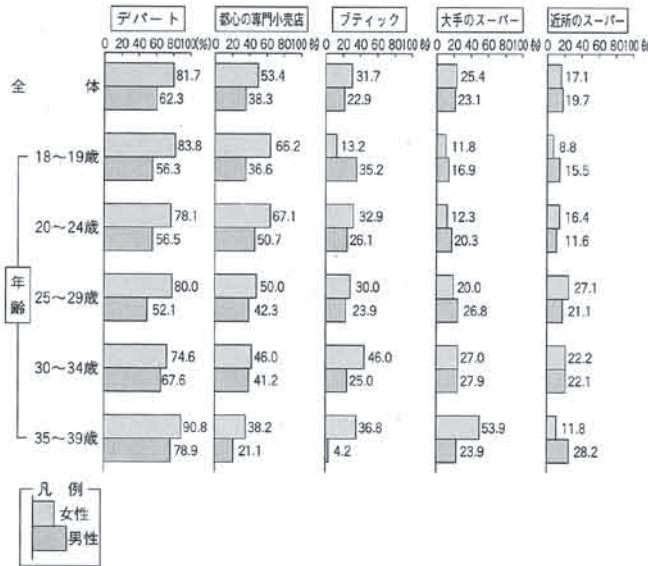
また、92年の男女を比較してみると「ショッピング」「友人との会話」「読書」「習い事・セミナー」「勉強」のいずれも女性の方が高率で、特に自己啓発に積極的のようです。

男性はオフタイムの時間自体が少ないためか、「テレビ・ビデオ」(67.1%)を見るか「休息」(45.7%)か、あるいは「恋人妻とデート」(48.3%)に時間をさくのがせいぜいといった現実で、「読書」(26.3%)などは女性に比べてかなり低率です。また、10代は「友人との会話」「スポーツ」も高率なのですが、30代前半で「テレビ・ビデオ」(82.4%)、30代後半で「休息」(69.0%)と、テレビにゴロ寝が目立ってきました。

2・ショッピングの行動範囲

デパートが人気。それでも、
男は近所のスーパー。パーがお好き。

<図-20> 買い物をする場所 '92年 (各々回答は3つまで)

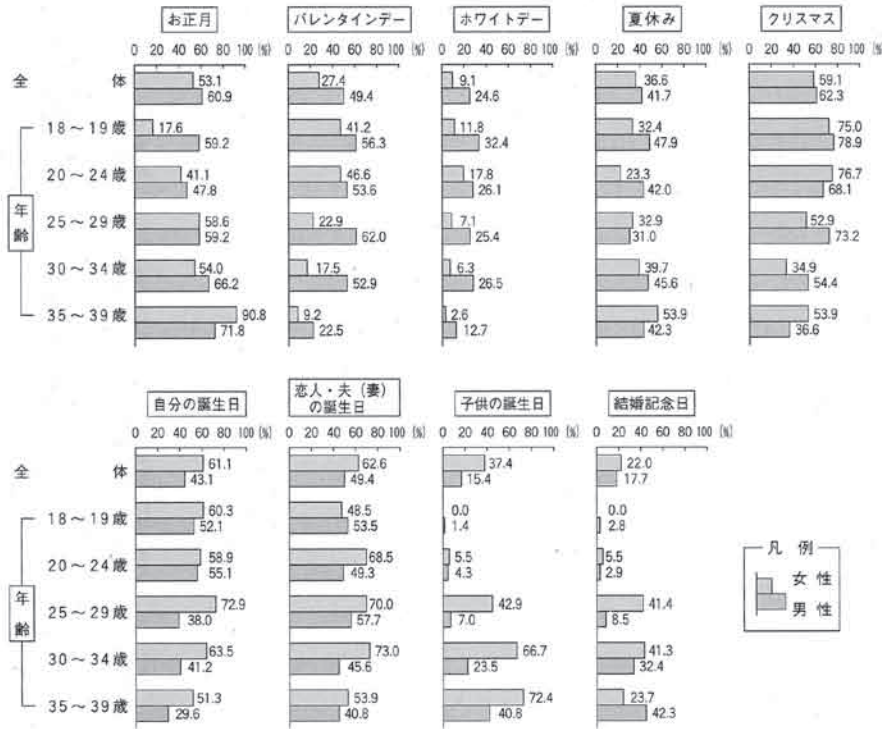


買い物をする場所(食料品・日用品以外)を開いたのは92年だけですが、男女別・年齢別の特徴を見ると、男女とも「デパート」「都心の専門小売店」が中心で、いずれも女性の方が高率です。「大手のスーパー」については男女の差が少なく、「近所のスーパー」は男性(19.7%)の方がやや高くなっています。

いずれの年齢も「デパート」をあげる人が多いのですが、女性には30代後半と10代でより高率であるのに対し、男性は年齢が上がるほど高くなっており、「近所のスーパー」も同様です。一方、若い10代の男性は「ブティック」(35.2%)が高率で、かなりおしゃやれにうなるようになってきていることがうかがえます。女性には「都心の専門小売店」が若い世代で高率です。30代後半では「大手のスーパー」(53.9%)が目立っています。

女にとってのバースデー。 男が気にするバレンタイン。

＜図-21＞自分にとって大切なイベント'92年（複数回答）



自分にとって重要な年中行事・イベントは何かを聞いたところ、**女性**は「恋人・夫の誕生日」(62・6%)、「自分の誕生日」(61・1%)、「クリスマス」(59・1%)、「お正月」(53・0%)が半数以上。以下子供の誕生日」(37・4%)、「夏休み」(36・6%)、「バレンタインデー」(27・4%)と続いています。

男性は「クリスマス」(62・3%)、「お正月」(60・9%)、「バレンタインデー」(恋人・妻の誕生日」(各49・4%)、「自分の誕生日」(43・1%)、「夏休み」(41・7%)の順で、**女性**は誕生日が中心であるのに対し、**男性**はラブ・イベントと遊び(行楽、休日)を重視していることが分かります。

年中行事・イベントのうち、男女別・年齢別で特徴があるものを見てみると、「お正月」は若い**男性**の方が、**女性**よりも高率ですが、「30代後半」になると、**女性**が(90・8%)がぐんと高率になります。支度などするべきことが肩にのしかかってくるためかもしれません。「夏休み」も同様に「30代後半**女性**」(53・9%)で高くなっていますが、これも子供の夏休み対応ということでしょう。

「バレンタインデー」と「ホワイトデー」はいずれの年代も**男性**の方が高率で、特に「20代後半**男性**」の「バレンタインデー」(62・0%)の高さが目立ちます。**女性**は「20代後半」からかなり低率になります。

「クリスマス」も「20代前半」までは男女とも高率で、「20代後半」「30代前半」は**男性**の方がかなり高率、**女性**は「30代後半」(53・9%)でまた高くなりますが、これはラブ・イベントから子供のイベントに移ったためでしょう。

「自分・恋人・夫・妻・子供の誕生日」はほとんどの年代で**女性**の方が高率で、特に「子供の誕生日」は「20代後半」以降の**女性**で、**男性**に比べてかなり高率であることが目立ちます。ただし、**男性**も年齢とともにあげる人が多くなります。

「結婚記念日」も**男性**は年齢が上になるほど高くなりますが、**女性**は「20代後半」(41・4%)、「30代前半」(41・3%)が中心です。

<表-1>

“セクシー” から受けるイメージ (女性)

順位	'82年 (自由回答)
1	女らしさと色気
2	大人の女性
3	マリリン・モンロー
4	色っぽい女
5	魅力
5	脚
7	女性の肢体・表情
8	おんな
9	ロッド・スチュアート
10	少しかげりのある男く ささの凛々大人の男性
10	沢田研二 (ジュリー)

順位	'86年 (複数回答)
1	ムードがある
2	色気がある
3	女っぽい
4	しなやかなからだ
5	大人っぽい
6	小悪魔的な
7	形のよいバスト
8	細いウエスト
9	危険な感じがする
10	形のよいヒップ

順位	'90年 (複数回答)
1	男性に好かれる
2	グラマーな
3	可愛い
4	ミステリアスな
5	やわらかい
6	知的な
7	女性に好かれる
8	明るい
9	単純な
10	頼りない

80年代のお色気イメージから、知的で、
グラマーな魅力に。

2. セクシーとは?

人間にはセクシーな要素が必要だと思うかどうか聞いたところ、女性には、絶対に必要」(13.7%)、「まあ必要」(50.0%)が合わせて63.7%、今回は「絶対に必要」(11.4%)、「まあ必要」(57.1%)合わせて68.5%で、必要と思う人がいくぶん増え、「全く・あまり必要ない」(今回7.1%)という人は減っています。

'82年も、20代前半。までの若い人の方が「必要」という率は高かったのですが、今回、20代前半は「絶対に必要」(24.7%)、「まあ必要」(57.5%)合わせて82.2%と特に高率です。

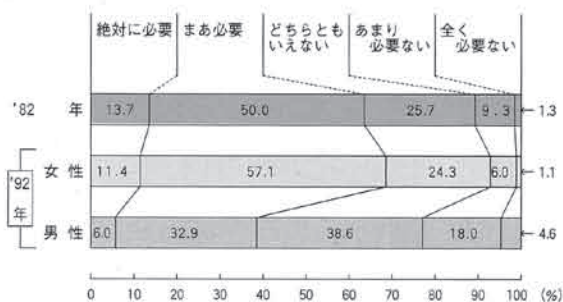
男性(92年)は「絶対に必要」(6.0%)、「まあ必要」(32.9%)合わせて38.9%と、女性に比べるとまだ低いのですが、18-19歳は両者合わせて47.9%、20代前半も「絶対に必要」が11.6%(合わせて39.1%)と、若い世代で「必要」と見る人が多くなっています。

人間としての魅力のひとつ。セクシーは
必要条件の時代になってきた。

1. セクシーさは必要か?

IV. “セクシー” の変化

<図-22> “セクシーさ” の必要性



「セクシー」のイメージを'82年には自由回答であげてもらいました。「女らしさ」「おんな」「色気」など漠然とした女っぽい女、あるいは「脚」「肢体」「表情」のからだ、人名として「マリリン・モンロー」「ロッド・スチュアート」「ジュリー」があげられ、女性が「セクシー」を考える場合、男性を想定する人も少なくありません。「86年も「ムード」「色気」がある「女っぽい」女、そして「しなやかなからだ」が上位です。

'90年は「グラマーな」「可愛い」「男性に好かれる」などが多いものの、一方で「ミステリアスな」「知的な」「大人っぽい女性」「反面「単純な」「頼りない」といったイメージ、そして新しい傾向として、「女性に好かれる」「明るい」もベスト10にあがっています。柳腰などの日本的なものはなく、グラマーな大人の雰囲気のある女性がセクシーということのようです。

「セクシー」はいまや、男女共通の

平成のほめ言葉。

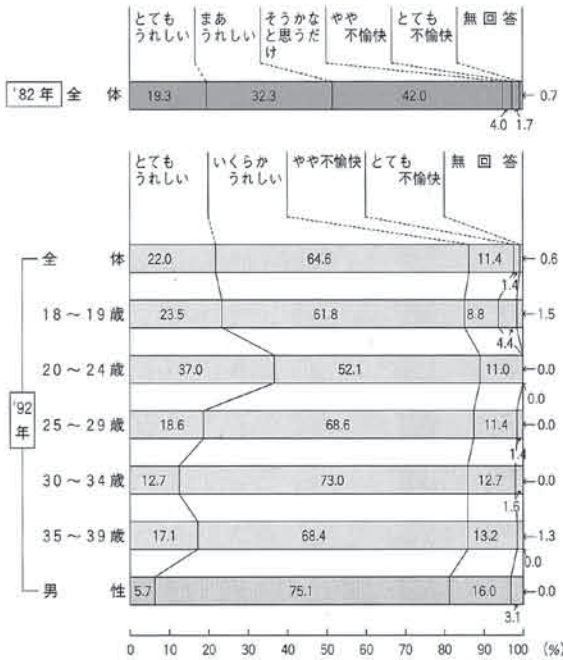
他人から「セクシーだ」と言われたときの反応として、**女性**は82年には「とてもうれしい」(19.3%)、「まあうれしい」(32.3%)が合わせて51.6%、「そうかなと思うだけ」の人も42.0%いました。18~29歳は「とてもうれしい」が20%強と、30代前半(12.7%)とは差が見られます。

今回(92年)は「とてもうれしい」(22.0%)は微増ですが、「いくらうれしい」(64.6%)が大幅に増え、うれしいと思う人が大勢を占めるようになりました。

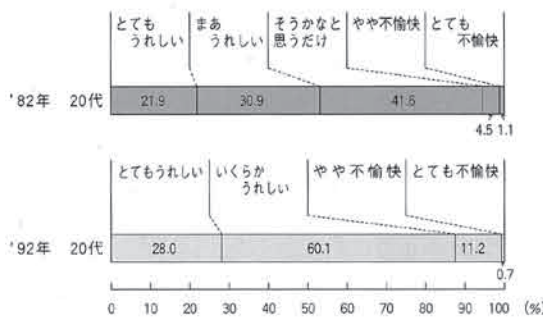
82年と92年の20代のみを比べてみても、今回の20代は「とてもうれしい」(28.0%)がより多く、「いくらうれしい」(60.1%)を合わせて88.1%に達しています。

男性(92年)は「とてもうれしい」(5.7%)という人がまだ少ないのですが「いくらうれしい」(75.1%)を合わせると、80.8%と女性に劣りません。18~19歳はうれしいと思う人がいくぶん少ない(とてもいづらかを合わせて73.2%)のですが、20代から30代前半は80%強と高率です。「セクシーだ」は、もはや男女共通のほめ言葉といえそうです。

<図-23> 「セクシーだ」と言われた時の反応



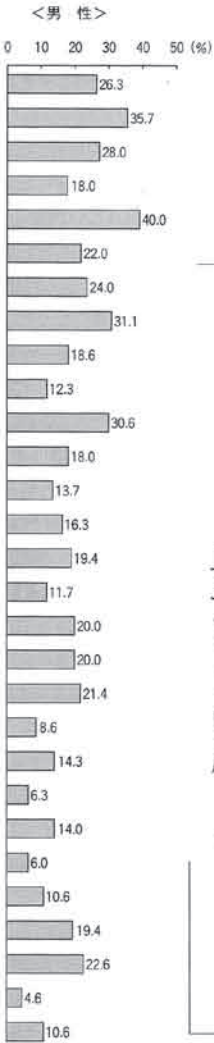
<図-24> 「セクシーだ」と言われた時の反応 (20代比較)



4.セクシーの条件

健康美を兼ね備えた

豊かな胸が最大の条件。

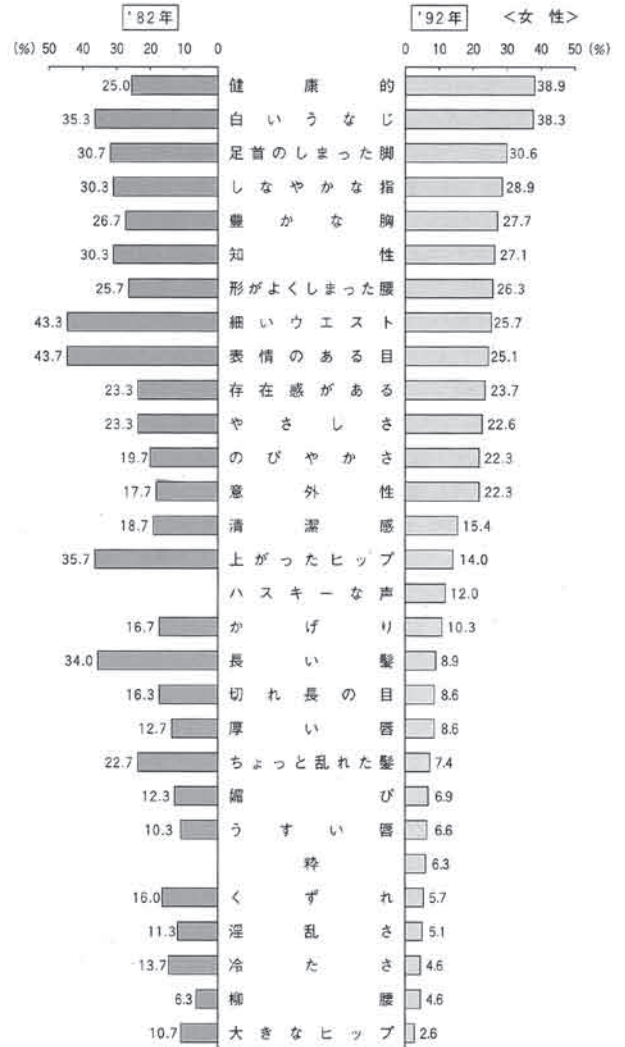


「セクシーな女性」とはどんな感じの人、どんなものを備えた人か、を見ると、**女性**は82年の調査では表情のある目(43.7%)、「細いウエスト」(43.3%)、「上がったヒップ」(35.7%)、「白いうなじ」(35.0%)、「長い髪」(34.0%)がベストでした。

今回(92年)は「健康的な目」(38.9%)、「白いうなじ」(38.3%)、「足首のしまった脚」(30.6%)、「しなやかな指」(28.9%)、「豊かな胸」(27.7%)がベストで、「健康的な目」が大幅に上がり、P・12で見た、時代が求める女性にもあったように、健康的でメリハリのある体がセクシーな女性の条件といえそうです。一方「細いウエスト」(14.7%)は低率です。

「知性」(33.8%)が他年代よりも高く、「足首のしまった脚」(14.7%)は低率です。**男性**の見る「セクシーな女性」は「豊かな胸」(40.0%)が第一、以下「白いうなじ」(35.7%)、「細いウエスト」(31.1%)、「やさしさ」(30.6%)、「足首のしまった脚」(28.0%)が

<図-25>セクシーな女性の条件 (複数回答)



<表-2>セクシーだと思う女性 (ベスト10)

順位	'82年 女性			'92年		
	順位	女性	件数	順位	男性	件数
1	1	浅野 温子	26	1	浅野 温子	17
2	2	中山 美穂	16	2	杉本 彩	16
3	3	宮沢 りえ	15	3	田中 美佐子	15
4	4	杉本 彩	12	4	宮沢 りえ	14
5	5	大原 麗子	11	5	岡本 夏生	12
6	5	かたせ 梨乃	11	6	黒木 瞳	11
7	7	山口 百恵	10	7	工藤 静香	9
7	7	浅野 ゆう子	10	7	森高 千里	9
7	7	スーザン・アントン	10	9	小泉 今日子	8
7	10	ブルック・シールズ	10	10	篠 ひろ子	7
11		中野 良子				
11		夏木 マリ				
11		佐藤 友美				

<表-3>セクシーだと思う男性 (ベスト10)

順位	'82年 女性			'92年		
	順位	女性	件数	順位	男性	件数
1	1	江口 洋介	18	1	江口 洋介	12
2	2	本木 雅弘	14	2	加勢 大周	11
3	3	吉田 栄作	11	3	岩城 滉一	9
4	3	田原 俊彦	11	3	三上 博史	9
5	5	加勢 大周	10	5	吉田 栄作	8
6	6	郷 ひろみ	9	6	風間 トオル	7
7	6	館 ひろし	9	6	本木 雅弘	7
8	8	奥田 瑛二	8	6	柳葉 敏郎	7
9	8	根津 甚八	8	9	中島 悟	6
9	8	中井 貴一	8	9	真田 広之	6
9	8	萩原 健一	8			
9		クラーク・ゲブル				
9		ミック・ジャガー				

セクシーナンバーは、
浅野温子と江口洋介。

5・セクシーの代表

「セクシーだ」と思う女性・男性を有名人・タレントからあげてもらいました。まずセクシーな女性の方は、「女性」は'82年には「松坂慶子」「フアラフォーセット」「多岐川裕美」がベスト3で、2位の他にも、「マリリン・モンロー」「シェリル・ラッド」「スーザン・アントン」「ブルック・シールズ」とアメリカ女優がベスト10に5人顔を出しています。今回('92年)は「浅野温子」「中山美穂」「宮沢りえ」をはじめとしてベスト10はいずれも日本人タレントで、セクシーなのは外国人という意識が薄らいだ、あるいは日本女性が欧米人とあまり変わらなくなったとも考えられます。

「男性」('92年)から見たセクシーな女性のベスト10は、1位こそ「浅野温子」と「女性」と同じものの、「杉本彩」「宮沢りえ」以外は「女性」とは異なるタレントが登場しており、セクシーな女性の評価がやや異なっているようです。

セクシーな男性の方は、「82年には「女性」から見て「沢田研二」「郷ひろみ」「藤竜也」がベスト3で、ベスト10に「ロッド・スチュアート」「アラン・ドロン」「ポール・ニューマン」「クラーク・ゲブル」「ミック・ジャガー」と多くの外国人が登場しています。

今回('92年)は「江口洋介」「本木雅弘」「吉田栄作」「田原俊彦」がベスト3で、ベスト10に外国人はあがっていません。'82年と'92年の両年にあげられているのは、「郷ひろみ」と「根津甚八」です。

「男性」('92年)にとってのセクシーな男性は、「江口洋介」「加勢大周」「岩城滉一」「三上博史」がベスト3で、セクシーな女性同様、1位は「女性」と同じですが、「岩城滉一」をはじめとして、ベスト10のうち6人は「女性」と異なる人があげられています。

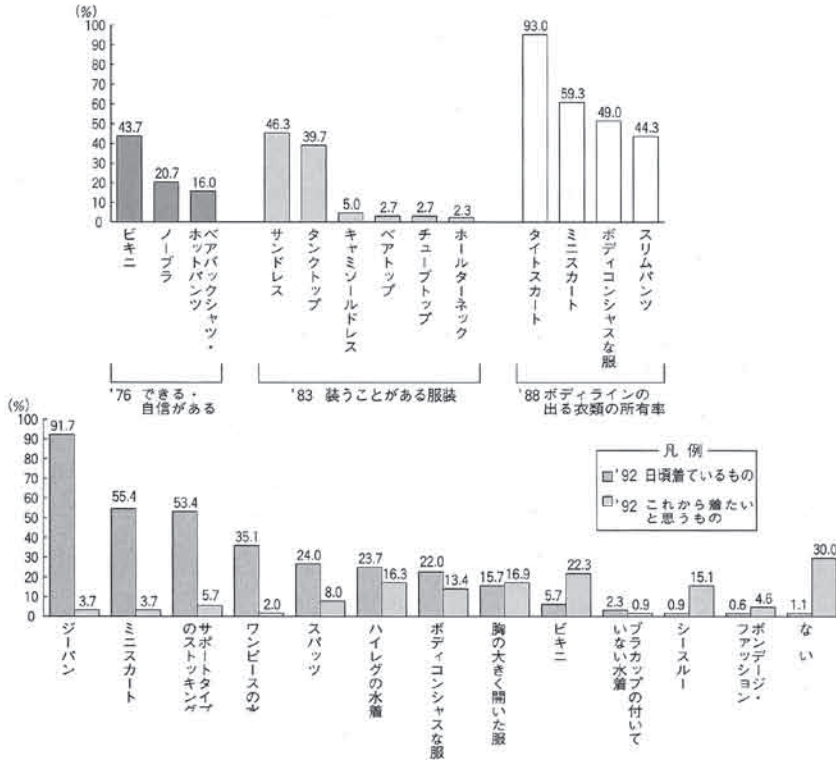
V・おしゃれとからだの関係

1.これから着たいファッション

ミニをはくのはあたりまえ。

ビキニ・シーズルーに挑戦の意欲。

<図-26>ファッションの容認度(女性)



各々の時代の先端ファッションについて、「着ることができ、自信がある」「装うことができる」「所有」など、さまざまな聞き方でその容認度を見てきました。

76年に「ビキニ」を着ることができた人は43.7%でしたが、今回(92年)日頃着ているという人は5.0%です。肌を出すのに抵抗はないが、流行によって着ないという人が多いようです。

83年は「サンドレス」(46.3%)、「タンクトップ」(39.7%)を装うことのある人が40%前後を占めていましたが、今回「胸の大きく開いた服」は15.7%です。もはやサンドレス程度では胸が大きく開いたといえないのかもしれない、調査時期による影響もあるものとみられます。

88年に「ミニスカート」(59.3%)、「ボディコンシャスな服」(49.0%)を所有していた人は半数前後、今回も両者は健在ですが「ボディコンシャスな服」を日頃着ている(22.0%)という人はあまり多くなく、もはや流行は去ったということかもしれません。

全般にボトムについてはからだの線がはつきり出るファッションに積極的な人が多く、今回(92年)も「ジーパン」(91.7%)、「ミニスカート」(55.4%)、「サポータタイプのストッキング」(53.4%)を日頃着ている人は半数を超えており、もはや定番といえそうです。年齢別による違いは水着などについてやや見られるだけで、あまりなく、30代後半でもボディラインの出る服をよく着ているようです。

現在では着ている人が少ないものの、これから着たいものとしては、「ビキニ」(22.3%)、「シーズルー」(15.1%)、「ボンデージ(注・拘束・ファッション)」(4.6%)とボディ全体にかかわる衣類が中心です。また、30代後半は「ハイレグの水着」(23.7%)、「シーズルー」(21.1%)に対して若い人より積極的に、自信をつけてきていることが分かります。10代は「ビキニ」(36.8%)、20代は「胸の大きく開いた服」が他年代よりも高率です。

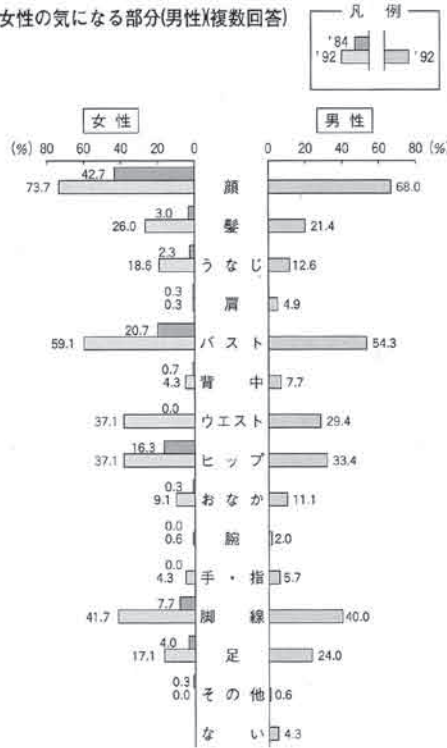
VI・ボディに対する意識について

1・男性の視線は、女性のどこに注がれる？

バスト、ウエスト、ヒップの

凹凸部分と脚線に注目。

<図-29>意識していると思う部分(女性) / 女性の気になる部分(男性)(複数回答)



男性は女性のからだのどこに注目しているか、84年に「女性」に「最も意識していると思うところ」1カ所をあげてもらったところ、「顔」(42.7%)、「バスト」(20.7%)、「ヒップ」(16.3%)に集中し、他は「脚線」(7.7%)が目立つ程度です。
 今回(92年)は複数回答で、「顔」(73.7%)、「バスト」(59.1%)、「脚線」(41.7%)、「ウエスト」(29.4%)、「ヒップ」(33.4%)の順となり、84年に比べて「脚線」と「ウエスト」が重視されています。

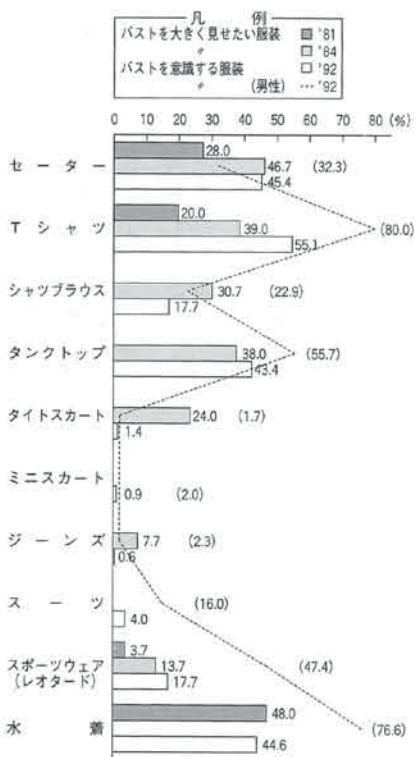
年齢別に見ても、いずれも「顔」「バスト」を半数以上があげており、年齢が上になるほど「ウエスト」「ヒップ」の率が高くなっています。また、30代は「脚線」が半数以上と他年代に比べて高率です。

では、「男性」が女性のボディで気になるのはどの部分かというところ、「顔」をあげる人が8.0%と最も高く、以下「バスト」(54.3%)、「脚線」(40.0%)、「ヒップ」(33.4%)、「ウエスト」(29.4%)が続きます。このように、男女ともバストには同じ部分に注目が集まっています。この点に関する男女の見解は一致しているようです。

年齢別に見ると、若い人ほど「バスト」をあげる割合が高く、10代(69.0%)ではトップになっています。また、「20代前半」から「30代前半」までは「顔」が7割台でトップですが、「30代後半」になると「脚線」(56.3%)が「顔」(53.5%)を抜いています。

2・バスト、ヒップとファッションの関係は?

<図-30>バストを意識する服装(複数回答)



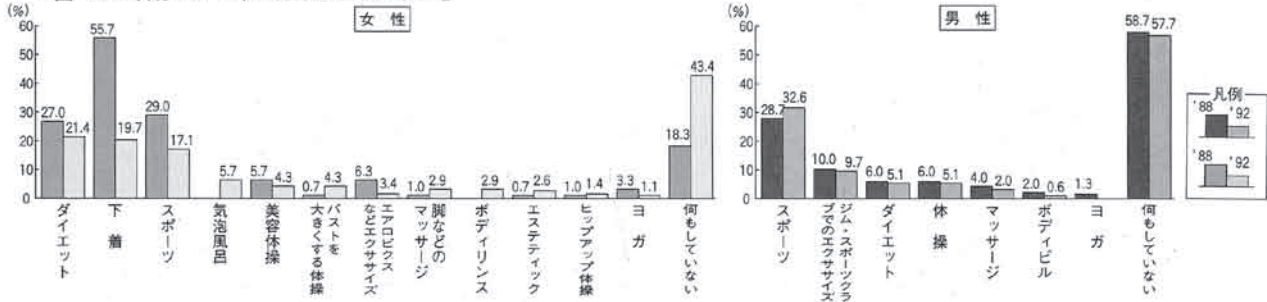
水着はもちろんTシャツで
 バストを大きく見せたい。

バストを意識するのはどの服装の時か、81年と84年には「大きく見せたい」服装として聞いています。

女性 は81年調査で大きく見せたいのは「水着」(48.0%)の時が特に高く、「セーター」(28.0%)、「Tシャツ」(20.0%)が続いています。

'84年に大きく見せたいという人が多かったのは「セーター」(46.7%)、「Tシャツ」(39.0%)、

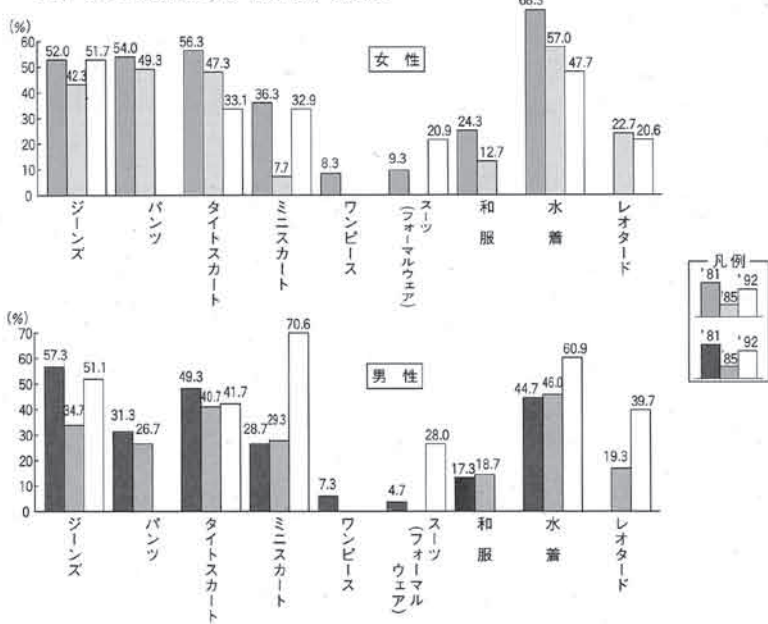
＜図-32＞自分のボディのためにしていること



意外に「何もしていない」人が
多いのは、ボディ自慢の増加から?

3. ボディラインのためにしていることは?

＜図-31＞女性のヒップを意識する服装



想像以上に男の視線は、この

ヒップに向けられている。

ヒップが気になる服装については、81年、85年、92年に聞いています。いずれの調査でも「女性」は「水着」「ジーンズ」「パンツ」「タイトスカート」が中心で、「ミニスカート」は85年(7.7%)にかなり低率でしたが、今回(32.9%)また高くなっています。ヒップラインがはつきり分かるボトム中心ですが、「水着」はバストについても高く、からだ全体が気になるというところもそうです。また、今回は「スーツ」も20.9%を示しています。

また「男性」に女性のヒップを意識する服装を聞いた場合は、これまで「ジーンズ」「タイトスカート」「水着」が中心でしたが、今回「ミニスカート」(70.6%)が大幅に伸びてトップ、「女性」が意識している以上に目が行っているようです。また、今回は「水着」(60.9%)、「レオタード」(39.7%)、「スーツ」(28.0%) もかなり高率です。

自分のボディのために、88年には「現在していること」、今回(92年)は「この1年間に経験したこと」を聞きました。

「女性」の場合は88年、92年とも「ダイエット」「下着」「スポーツ」が相変わらず中心ですが、「気泡風呂」(5.7%)、「バストを大きくする体操」(4.3%)、「脚などのマッサージ」(2.9%)、「ボディリンズ」(2.9%)、「エステティック」(2.6%)などへ多様化していることが分かります。また、「何もしていない」という人が今回(43.4%)大幅に増えています。ボディに自信を持つ人が増えたのか、それとも試みはやりつくしたということでしょうか。

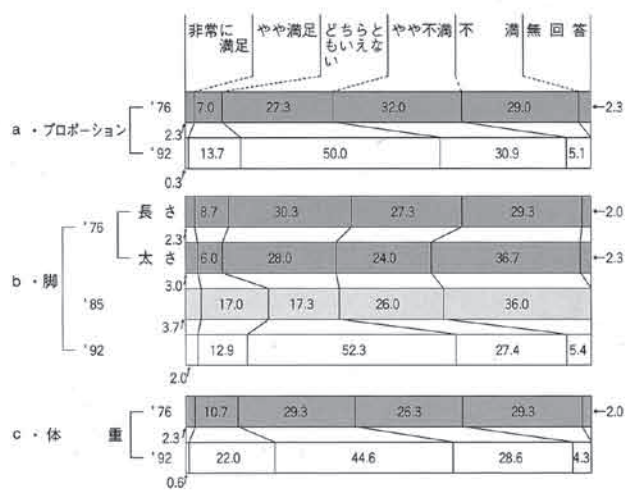
「男性」は「スポーツ」が中心で、前回に比べて今回(32.6%)やや伸びているものの、傾向・率ともあまり変わりません。また、6割近くが「何もしていない」と答えています。

「タンクトップ」(38.0%)などで、「スポーツウェア」(13.7%)も含めて、大きく見せたいという人が81年に比べてかなり多くなっています。バストを意識する人が増えたことがわかります。

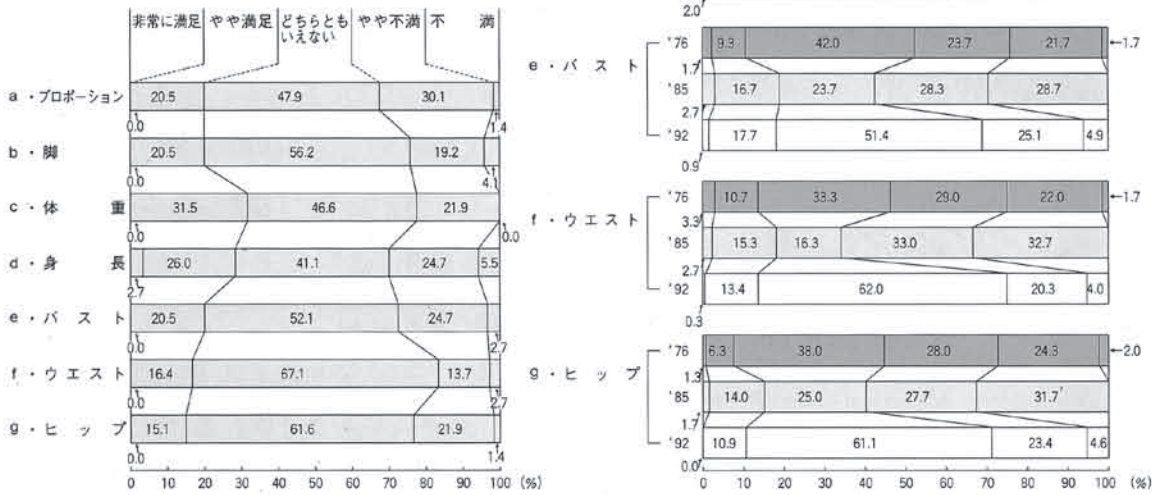
92年にバストを意識する服装としてあげた人が多かったのは、「Tシャツ」(55.1%)、「セーター」(45.4%)、「水着」(44.6%)、「タンクトップ」(43.4%)などで、服装の種類はあまり変わりませんが、「Tシャツ」や「タンクトップ」はより高率です。年齢別では、30代前半で「Tシャツ」(71.4%)、「ジャズブラウス」(36.5%)、「レオタード」(30.2%)が高率です。今回(92年)「男性」に女性のバストを意識する服装を聞いたところ、「Tシャツ」(80.0%)、「水着」(76.6%)、「タンクトップ」(55.7%)、「レオタード」(47.4%)の順で高く、「セーター」(32.3%) 以外はいずれの服装も「女性」があげた率よりかなり高くなっています。

自分のからだだって、キライじゃない。
20代前半女性の1/4はボディに満足。

<図-33>自分のボディへの満足度(女性)



<図-34> "20~24歳" 女性の自分のボディへの満足度 '92年 (女性)



女性に自分のボディの各部分の満足度について'76年、'85年、'92年に聞いています。

a. プロポーション

ここでは'76年、'92年のデータのみですが、'92年は「非常に・やや満足」(14.0%)の人が大幅に増えたわけではありませんが、「不満・やや不満」(36.0%)が'76年(61.0%)に比べて大幅に減り、不満感を持つ人が少なくなっています。

b. 脚

脚も同様に'76年、'85年は不満を持つ人が6割を占めていたのですが、今回は32.8%と少なく、「どちらともいえない」(52.3%)が過半数を占めています。

c. 体重

'92年は体重について「やや満足」(22.0%)、「どちらともいえない」(44.6%)という人が増え、「不満」「やや不満」は合わせて32.9%と、'76年(55.6%)に比べかなり減っています。

d. 身長

身長もやはり'92年は「やや満足」(27.1%)、「どちらともいえない」(42.3%)という人が76年に比べ増え、不満派は45.0%から28.6%と減っています。

e. バスト

バストについては、'85年には、'76年に比べ満足派が増えたものの不満派も多く、57.0%を占めていました。今回('92年)は満足派は変わりませんが、「どちらともいえない」(51.4%)が増え、不満派は30.0%にとどまっています。

f. ウエスト

ウエストもバスト同様'85年に不満派がより多くなり、65.7%を占めていました。今回('92年)は24.3%と少なく、「どちらともいえない」が62.0%と多くなっています。

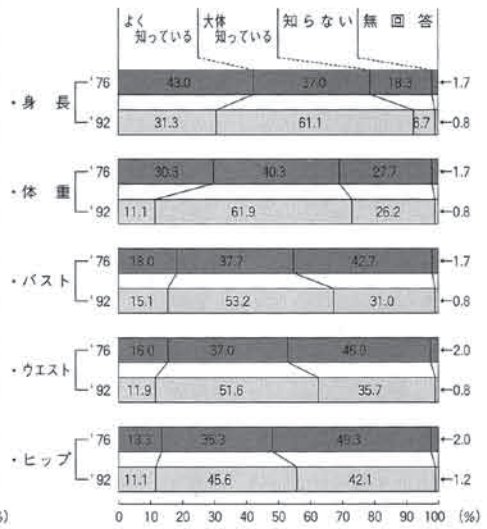
g. ヒップ

ヒップもやはり、不満派・満足派とも'85年が多く、今回「やや満足」が10.9%と減ったものの、「どちらともいえない」(61.1%)が増え、不満派は28.0%です。

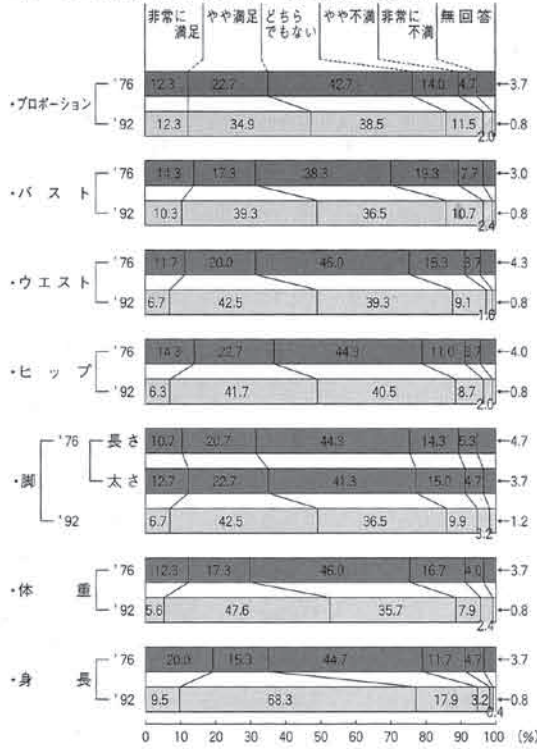
ボディの各部分とも、これまでに比べて'92年は「どちらともいえない」人が多く、はつきり満足とまではいかないにしても、自信を持っている人が多くなっていることがうかがえます。

なお、今回調査の、20代前半の女性のボディに対する満足度を見ると、(身長以外について)「非常に満足」と思っている人はいませんが、「やや満足」という人は多く、特に(体重)(31.5%)、(プロポーション)(20.5%)についてはどの年齢層よりも多くなっています。また(ヒップ)や(脚)について「不満」という人は最も低率です。また、いずれの項目も「どちらともいえない」という人が多いので、控えめながら、20代前半の女性の自分のボディに対する満足度はかなり高いものと思われます。

<図-35> 恋人・妻のボディサイズの認知 (男性)



<図-36> 恋人・妻のボディへの満足度 (男性)



恋人のボディサイズは、

知っているのがあたりまえ。

男性は、恋人や妻のボディサイズをどの程度知っているのか、'76年と'92年に聞いています。

'76年、'92年とも知っている人が多いのは「身長」▽「体重」▽「バスト」▽「ウエスト」▽「ヒップ」の順で、最も低い「ヒップ」でも「よく」「大体」合わせて、'76年に「知っている」人が48.6%、'92年では56.7%見られます。

'92年は、'76年と比べて、各サイズとも「よく知っている」人はやや減っているものの、「大体知っている」人は増え、「よく」「大体」知っているを合わせた率は今回の方が高くなっています。男性が親しい女性のボディサイズを知っているのは、もはやあたりまえの感覚になってきているようです。

男性の半数が、

愛する人のプロポーションに満足。

男性の恋人妻のボディサイズについての満足度を見ると、今回('92年)は'76年に比べていずれの項目も「非常に・やや満足」という人が増え、「非常に・やや不満」の人を大幅に上回っています。特に「身長」については、「非常に満足」(9.5%)、「やや満足」(68.3%)合わせて77.8%を占め、満足度が高くなっています。若い世代で体格がよくなっていることが影響しているのか、不満派が多いのは、'30代後半です。全般にこれだけ満足度が高いと、女性が自分のボディに自信を持つようになってくるのも当然といえそうです。

6・納得できるボディサイズ

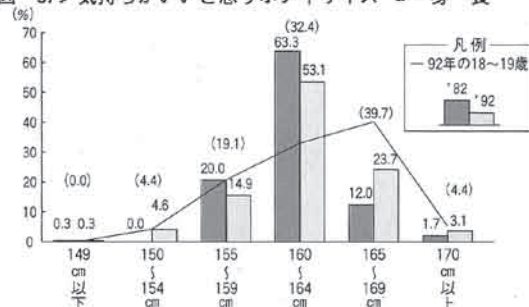
バスト・ヒップ **85cm**、ウエスト **58cm** の **グラマラスボディ**が理想。

女性

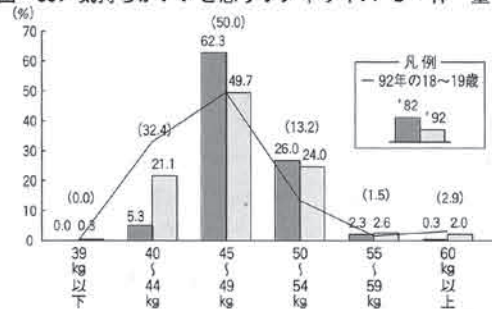
a・身長

自分がこれくらいなら気持ちがいいと思うボディサイズを、まず身長から見ると、'82年には「160〜164cm」(63.3%)に集中し、「155〜159cm」(20.0%)が続いていましたが、今回('92年)は「160〜164cm」(53.1%)に続いて「165〜169cm」(23.7%)が気持ちがいいと

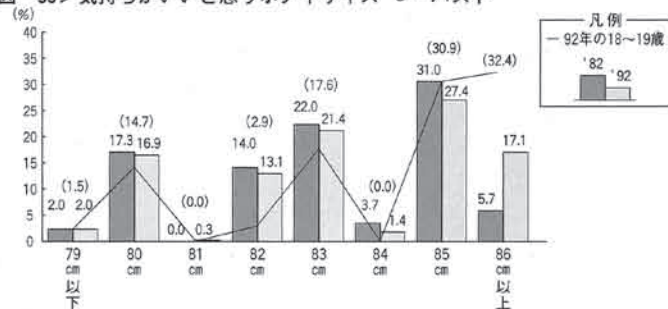
＜図-37＞気持ちがいいと思うボディサイズ a・身長



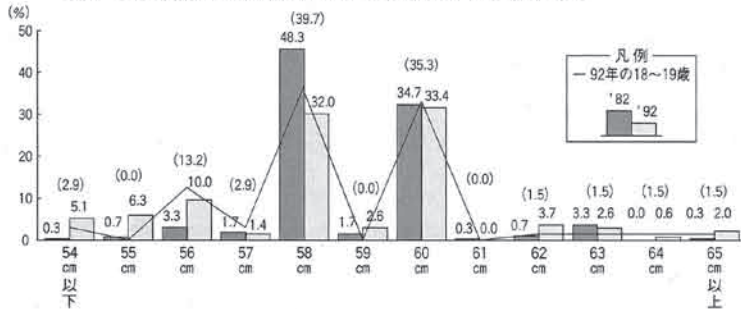
＜図-38＞気持ちがいいと思うボディサイズ b・体重



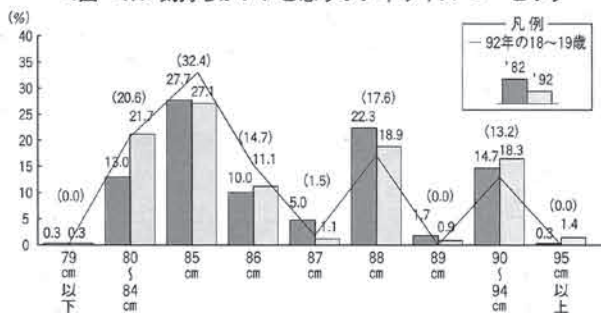
＜図-39＞気持ちがいいと思うボディサイズ c・バスト



＜図-40＞気持ちがいいと思うボディサイズ d・ウエスト



＜図-41＞気持ちがいいと思うボディサイズ e・ヒップ



気持ちがいいと思うボディサイズ a・身長
 平均は、'82年「58・3 cm」、'92年「53・1 cm」が中心でしたが、'92年は「160 ~ 164 cm」(53.1%)に集中気味です。

b・体重
 体重は'82年、'92年とも「45 ~ 49 kg」が中心ですが、今回は分散し、「40 ~ 44 kg」(21.1%)が増え、「39 kg 以下」(0.3%)の人も見られます。

c・バスト
 平均は'82年が「77・8 cm」、'92年「77・0 cm」、'92年の「18 ~ 19 歳」は「45・9 cm」です。

d・ウエスト
 ウエストは'82年、'92年とも「58 cm」「60 cm」をあげる人が多いのですが、今回('92年)は「85 cm」(27.1%)、「80 ~ 84 cm」(21.7%)、「88 cm」(18.9%)、「90 ~ 94 cm」(18.3%)と分散しています。'92年「18 ~ 19 歳」は「85 cm」(32.4%)に集中気味です。

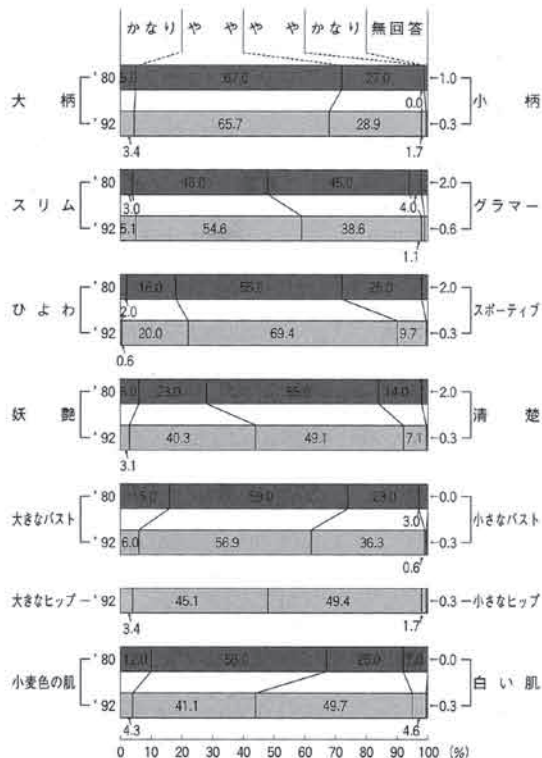
e・ヒップ
 平均は、'82年「86・3 cm」、'92年「86・0 cm」、'92年「18 ~ 19 歳」は「86・1 cm」でウエスト同様あまり変わっていません。

気持ちがいいボディサイズの変化をまとめてみると、

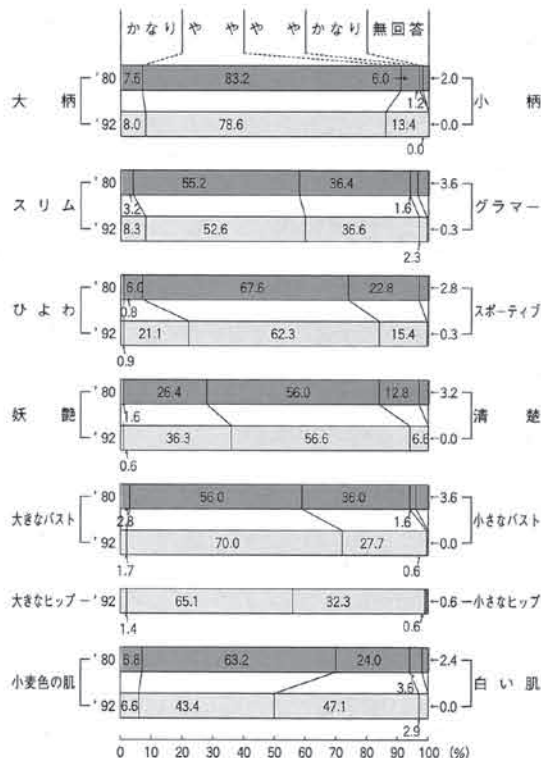
- ・身長はやや高く、10代はより高め。
- ・体重は軽く、10代はより軽く。
- ・バストはやや大きく、10代はより大きく。
- ・ウエストはあまり変わらず、ヒップも変わらず。

という結果になり、重心がやや上に移ってバストを大きくすることでメリハリのあるからだになりたいという希望がうかがえます。

<図-43>現代にふさわしい理想的な女性のボディ (男性)



<図-42>現代にふさわしい理想的な女性のボディ (女性)



80年代のスポーティスリムから、妖艶グラマラスの時代。

80年代には「80年代にふさわしい理想的なボディ」を、92年は「90年代にふさわしい理想的なボディ」を、7組の対になっているタイプのどちらだと思っか聞きました。

まず「女性」の回答を見ると、80年、92年とも大柄（かなり・やや、合わせて90.8%・86.6%）、「スリム」（同58.4%・60.9%）、「スポーティ」（同90.4%・77.7%）、「清楚」（同68.8%・63.2%）、「大きなバスト」（同58.8%・71.7%）、そして92年のみ「大きなヒップ」（同66.5%）も、また80年には「白い肌」（同27.6%）より「小麦色の肌」（同70.0%）を理想とする人の方が多かったのですが、今回（92年）はちょうど半々です。他に、今回やや減っているのは「スポーティ」と「清楚」やや矛盾するようですが、「ひよわ」（同22.0%）と「妖艶」（同36.9%）がやや増え、「大きなバスト」もより多くなっています。気持ちがいいボディサイズが同様、大きなバストに人気があるようです。

「男性」から見た理想的なボディは、やはり80年、92年とも「大柄」（同72.0%・69.1%）、「スリム」（同49.0%・59.7%）、「スポーティ」（同80.0%・79.1%）、「清楚」（同69.0%・56.2%）、「大きなバスト」（同74.0%・62.9%）ですが、ヒップについては「女性」とは反対に「小さなヒップ」（同51.1%）をあげている人の方がやや多く、92年は「白い肌」（同54.3%）が「女性」よりも高率です。

80年に比べて今回増えたのは「スリム」「妖艶」（同43.4%）。「大きなバスト」は少なくなっています。

理想的なヒップの女性ベスト10

<表-7> '81年

女性から見たベスト10	男性から見たベスト10
1 松坂 慶子	1 浅野 ゆう子
2 浅野 ゆう子	2 松坂 慶子
3 由美 かおる	3 由美 かおる
4 ピンクレディー	4 松田 聖子
5 木の実 ナナ	5 ピンクレディー
6 小柳 ルミ子	6 小柳 ルミ子
7 前田 美波里	7 柏原 芳恵
8 坂口 良子	8 榎原 郁恵
9 桃井 かおり	9 宮崎 美子
10 多岐川 裕美	10 渡部 絵美

<表-8> '85年

女性から見たベスト10	男性から見たベスト10
1 浅野 ゆう子	1 由美 かおる
2 松坂 慶子	2 浅野 ゆう子
3 由美 かおる	3 松坂 慶子
4 小柳 ルミ子	4 石川 秀美
5 M I E	5 M I E
6 石川 秀美	6 小柳 ルミ子
7 木の実 ナナ	7 早見 優
8 前田 美波里	7 吉永 小百合
9 小泉 今日子	7 十朱 幸代
10 早見 優	7 倍賞 美津子
	7 前田 美波里
	7 大原 麗子

<表-9> '92年

女性	件数	男性	件数
1 宮沢 りえ	4.7	1 杉本 彩	3.0
2 杉本 彩	3.8	2 宮沢 りえ	2.7
3 浅野 ゆう子	1.7	3 かとう れいこ	1.8
4 岡本 夏生	1.4	4 岡本 夏生	1.3
5 かとう れいこ	1.2	5 田村 英里子	1.2
6 かたせ 梨乃	1.1	6 浅野 ゆう子	1.0
7 石田 えり	9	6 山咲 千里	1.0
8 浅野 温子	8	8 森高 千里	9
9 松坂 慶子	6	8 安田 成美	9
9 田村 英里子	6	8 マリリン・モンロー	9

<表-10> '92年 理想的なヒップの男性ベスト10

女性	件数	男性	件数
1 本木 雅弘	2.8	1 本木 雅弘	1.8
2 吉田 栄作	2.1	2 吉田 栄作	1.0
3 郷 ひろみ	1.7	2 鈴木 大地	1.0
4 清原 和博	1.2	4 清原 和博	8
5 江口 洋介	1.0	5 田原 俊彦	7
6 加勢 大周	9	5 加勢 大周	7
6 錦 ひろし	9	5 貴花田	7
6 田原 俊彦	9	5 三上 博史	7
6 風間 トオル	9	5 鈴木 亜久里	7
10 織田 裕二	8	10 萩原 健一	6

女性
理想的、魅力的なヒップを持った有名人・タレントは、'81年、'85年、'92年に聞いています。今回のベスト4は「女性」の3位「浅野ゆう子」を除いて、男女とも、魅力的なバストの持ち主

りえちゃんもモツタンがナンバー1。
スポーツ選手のヒップも人気。

男性
理想的なヒップの男性有名人・タレントは1位、2位が男女とも同じです。「本木雅弘はスリムで説得力があり、「吉田栄作」はジーンズ姿が印象に残っているのではありません。4位の「清原和博」も男女共通していますが、他にも「男性」のベスト10にはスポーツ選手が多く登場しており、またえられた筋肉質のヒップを理想的だと思う人が多いようです。

<表-5> 魅力的なバストの持ち主 ベスト10 ('84) <表-4> 美しいバストを持った女性 ベスト10 ('81)

順位	女性
1 小柳 ルミ子	
2 松坂 慶子	
3 河合 奈保子	
3 由美 かおる	
5 早乙女 愛	
5 柏原 芳恵	
7 竹下 景子	
8 榎原 郁恵	
9 十朱 幸代	
10 美保 純	
10 池波 志乃	

順位	女性
1 松坂 慶子	
2 由美 かおる	
3 小柳 ルミ子	
4 マリリン・モンロー	
5 鳥丸 せつ子	
6 浅野 ゆう子	
6 榎原 郁恵	
6 ミロのビーナス	
9 多岐川 裕美	
9 桃井 かおり	

<表-6> 魅力的なバストを持った女性ベスト10 ('92)

順位	女性	件数	順位	男性	件数
1 杉本 彩	4.4	1 かとう れいこ	3.5		
2 宮沢 りえ	3.4	2 宮沢 りえ	3.0		
3 かとう れいこ	2.7	3 杉本 彩	2.9		
4 岡本 夏生	1.8	4 岡本 夏生	1.6		
5 かたせ 梨乃	1.4	5 西田 ひかる	1.5		
5 石田 えり	1.4	6 田村 英里子	1.4		
7 河合 奈保子	1.2	7 かたせ 梨乃	1.0		
8 西田 ひかる	1.0	8 小泉 今日子	9		
9 高岡 早紀	9	9 樋口 可南子	8		
9 小柳 ルミ子	9	10 山咲 千里	7		

杉本彩やかとうれいこ。

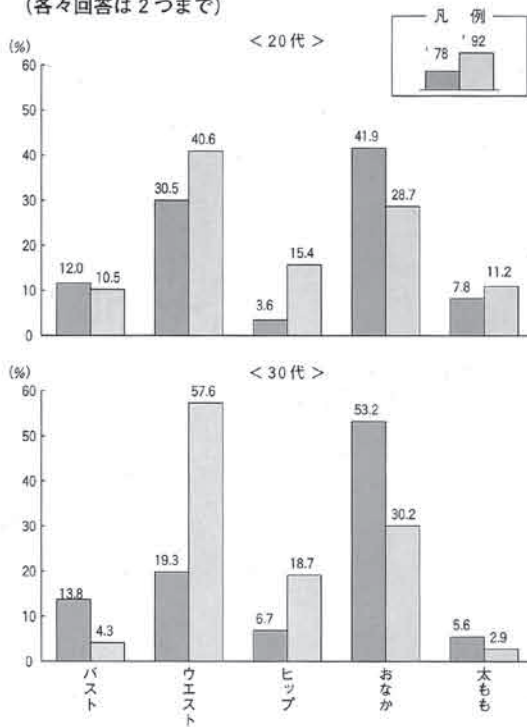
りえちゃんも登場のバスト美人。

美しい・魅力的なバストを持った有名人・タレントは、'81年、'84年、'92年に聞いています。'81年のベスト10は、「マリリン・モンロー」「ミロのビーナス」といった固定したイメージの人もあげられており、全般に大人の女性を中心とした。今回は、若い身近なタレントが上位に並んでおり、年齢にかかわらず素敵なバストのイメージが変化しているようです。男女でもあまり違いはありません。「小柳ルミ子」は3回の調査のベスト10に登場しており、10年以上にわたってバストに注目されていることになりました。

9・魅力的なヒップの持ち主は？

8・魅力的なバストの持ち主は？

<図-44>少しでも変化すると気になる部分 (女性)
(各々回答は2つまで)



女性にとって少しでも変化すると気になる部分は、'92年の場合「顔」(56.0%)、「ウエスト」(47.1%)、「おなか」(28.0%)、「ヒップ」(16.6%)などですが、ここでは78年に調査したボディの各部分についての年齢別の結果を比較してみました。

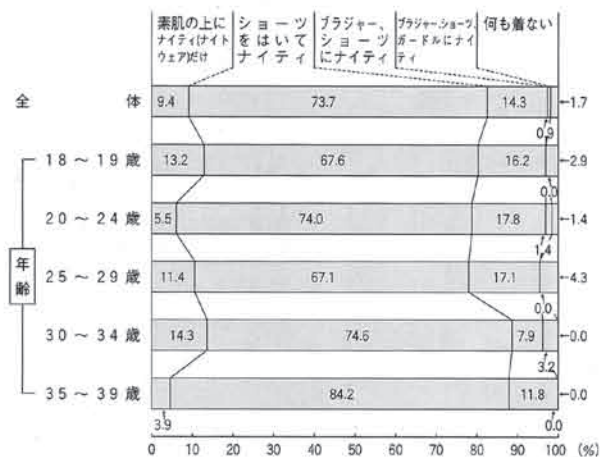
'78年の調査で、20代女性に「おなか」(41.9%)をあげる人が最も多く、「ウエスト」(30.5%)がそれに続いていました。30代になるとより「おなか」(53.2%)に集中し、「ウエスト」(19.3%)は低くなっています。

'92年の調査では、20代で「ウエスト」(40.6%)が第一、続いて「おなか」(28.7%)ですが、「ヒップ」(15.4%)も78年に比べると高率です。

30代では「ウエスト」(57.6%)がより高くなり、「おなか」(30.2%)、「ヒップ」(18.7%)も、20代より高率です。全般にボディへの関心が高くなり、からだの凹凸、メリハリを気にかけるようになったものと思われれます。

ズン胸恐怖症は変わらぬ悩み。
ウエストの変化に女性は敏感。

<図-45>寝る時、身につけているもの '92年 (女性)

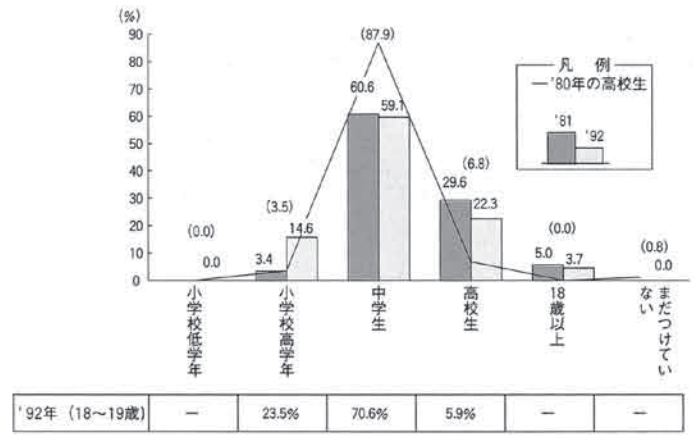


ブラをつけて寝る人が意外に多い。
寝ていても気になるボディ。

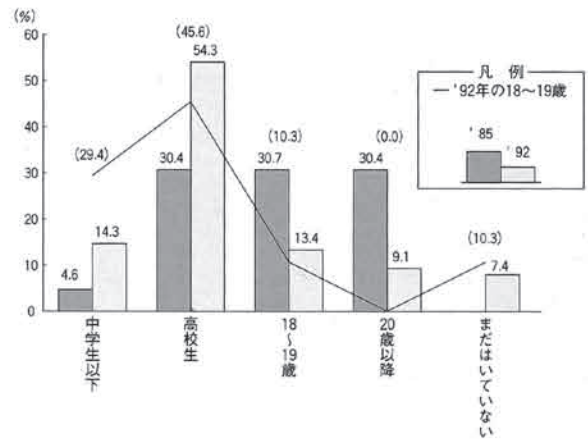
女性に、寝る時身につけているものは何か、寝る時のスタイルを聞いてみたところ、「ショーツをはいてナイティ」という人が73.7%と圧倒的に多くなっていますが、「ブラジャー、ショーツにナイティ」(14.3%)、中には「ブラジャー、ショーツ、ガードルにナイティ」(0.9%)という人もいます。ブラジャーをつけて寝る人がこれだけいるということは、常にからだのことを考えている人が少なくないということです。反面、「素肌の上にナイティだけ」という人も1割(9.4%)、さらに「何も着ない」という人も少数(1.7%)います。

年齢別に見ても、いずれも「ショーツをはいてナイティ」という人が圧倒的に多数を占めていますが、「素肌の上にナイティだけ」は、30代前半(14.3%)、10代(13.2%)、20代後半(11.4%)で1割台を示しています。「ブラジャー」をつけている人は、10代から、20代で16.18%強と、30代(11.8%)の1割台に比べて多く見られます。

<図-46>初めてブラジャーをつけた時期（女性）



<図-47>初めてガードルをつけた時期（女性）



成長度合いは驚異的。ガードルも
ティーンエイジから。

初めてブラジャーをつけたのは、'81年、'92年とも「中学生」を中心に「高校生」が続いていますが、今回は「小学校高学年」（14.6%）の人も少なくありません。なお、'80年の高校生の調査では「中学生」（87.9%）により集中し、「高校生」になってからという人は6.8%と少なくなっています。

'92年の調査でも、18~19歳のみを見ると、やはり「中学生」（70.6%）が中心なもの、「小学校高学年」（23.5%）も4分の1近くを占めており、94.1%が中学生までのうちにブラジャーをつけ終えています。

初めてガードルをつけたのは、'85年の調査では「18~19歳」（30.7%）、「20歳以降」（30.4%）、「高校生」（30.4%）が同程度でしたが、今回は「中学生以下」（14.3%）を含めて「高校生」（54.3%）までのうちに7割近くははいています。一方で、今回は「まだはいていない」（7.4%）人も少なくありません。'92年の「18~19歳」は「高校生」（45.6%）、「中学生以下」（29.4%）と高校生までの間に75.0%ははいていますが、「まだはいていない」人も10.3%います。成長が早くなり、ブラジャーの場合同様、からだへの関心を持つ時期が早くなってきているようです。

ブラでバストを補正したいから、
ワイヤー入りがいちばん。

今回、最も好きなブラジャーのタイプを一つあげてもらったところ、「ノンワイヤー」という人が32.3%と最も多くなっていますが、以下「フルカップ（ワイヤー入り）」（27.1%）、「3/4カップ（ワイヤー入り）」（21.4%）、「1/2カップ（ワイヤー入り）」（17.7%）が続きます。ワイヤー入りのブラが66.2%と3分の2を占めています。ブラジャーに補正機能と大きく見せることを求めている人が多いのでしょう。

年齢別に見ると、10代では「3/4カップ（ワイヤー入り）」（41.2%）が圧倒的人気ですが、20代前半から30代前半までは「ノンワイヤー」がトップになっています。また、年齢が上の人ほど「フルカップ（ワイヤー入り）」、「1/2カップ（ワイヤー入り）」の割合が高い傾向が見られ、30代後半では「フルカップ（ワイヤー入り）」（32.9%）が最も多くなっています。

<図-48>好きなブラジャーのタイプ '92年（女性）

